

講義概要（シラバス）

講義概要（シラバス）について

講義概要（シラバス）は、今年度開設される科目について、そのテーマやねらい、各回の授業内容、開設時期、単位数などを予め記したものです。科目は、幼稚園教諭免許状や保育士資格、介護福祉士国家試験受験資格（経過措置期間5年）を取得するために国が定めている科目と本校独自に開設する科目とで構成されています。

科目ごとの単位数は、授業の時間数だけではなく、授業外に皆さんが行う学修時間数を含めて計算することになっています。本書を活用し、積極的な事前・事後の学修を行うよう心がけてください。また、各科目の初回授業では、本書をもとに担当教員が授業展開等について説明することがありますから、初回授業に出席する際には必ず本書を持参してください。

なお、各種資格取得や大学等への入学・編入学の際に、本校で修得した単位が認められることがあります。その場合には講義概要の写しの提出が求められることが通例ですので、本書を各自で大切に保管してください。

目 次

保 育 科

Ⅰ 学年

キリスト教概論（川上）	64
法学（日本国憲法）（青木）	65
体育理論（眞鍋）	66
外国語コミュニケーション（雨ヶ崎）	67
情報機器演習（石川）	68
保育原理Ⅰ（山梨）	69
教育の原理と制度（伊藤）	70
子ども家庭福祉（藤澤）	71
社会福祉（長田）	72
社会的養護Ⅰ（齊藤）	73
教育心理学（高木）	74
発達心理学（政近）	75
子どもの保健（小林）	76
保育・教育課程論（伊藤）	77
保育指導法総論（野見山）	78
環境指導法（板東）	79
表現指導法Ⅰ A（鳴原）	80
表現指導法Ⅰ B（松岡）	81
子どもと健康（眞鍋）	82
子どもと環境（板東）	83
身体表現（松岡）	84
音楽表現Ⅰ A（桐原）	85
音楽表現Ⅰ B（倉林）	86
音楽表現Ⅱ（桐原・他音楽講師7名）	87
造形表現Ⅰ A（荒木）	88
造形表現Ⅰ B（荒木）	89
乳児保育Ⅰ（平原）	90
乳児保育Ⅱ（平原）	91
子どもの健康と安全（小林）	92
保育活動実践演習Ⅰ（吉澤・他専任講師）	93

2 学年

体育実技（松岡）	96
子ども家庭支援論（山梨）	97
保育者論（学校安全への対応を含む）（梨子）	98
保育原理Ⅱ（山梨）	99
子ども家庭支援の心理学（中）	100
子どもの理解と援助（山梨）	101
子どもの食と栄養Ⅰ（岡田）	102
子どもの食と栄養Ⅱ（岡田）	103
臨床心理学（松宮）	104
健康指導法（眞鍋）	105
人間関係指導法（向井）	106
言葉指導法（藤澤）	107
表現指導法Ⅱ（荒木）	108
子どもと言葉（藤澤）	109
音楽表現Ⅲ（桐原・他音楽講師5名）	110
造形表現Ⅱ（宮脇）	111
特別支援教育・保育概論（豊永）	112
社会的養護Ⅱ（母里）	113
子育て支援（麗麗）	114
教育相談論（松宮）	115
国語表現法（野見山・藤澤・他）	116
保育・教職実践演習（山梨・野見山・平原・板東・他）	117
実習科目	
保育実習Ⅰ－保育所（平原・他）	120
保育実習Ⅰ－施設（藤澤・他）	121
保育実習指導Ⅰ（藤澤・平原）	122
教育実習指導（野見山）	123
教育実習（野見山・他）	124
保育実習Ⅱ（保育所）（平原・他）	125
保育実習指導Ⅱ（平原）	126

履 修 の 手 引 き

履修のQ & A	129
履修チャート	131
資格取得方法	132
専門士の称号が与えられます	133
時間割表	134

保 育 科

1 学年

科目名 キリスト教概論			担当教員 川上善子	
1 年次	前期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 彰栄学園の建学精神を理解し、本校生徒としての自覚を深める。 キリスト教及び宗教の基礎的知識を得る。 宗教的なアプローチから自分自身と社会、また世界を知る。 歴史や文化、芸術におけるキリスト教の役割を知る。				
授業のねらい・概要 本学は、アメリカ・バプテスト・ミッションから派遣されたジュネヴィーヴ・タッピング婦人宣教師がキリスト教主義に基づいて創設した学校です。この授業は、キリスト教に関する基礎的な知識を習得することを目的としています。キリスト教は仏教、イスラム教と共に世界三大宗教のひとつであり、長い歴史の中で数えきれないほどの人々の心を潤し、満たし、勇気づけ、真実の愛の喜びに導いてきました。この授業を通して、豊かな人生観、世界観、洞察力を養い、21 世紀を担うに相応しい教養を身につけましょう。				
授業の内容・進め方 1. 授業の概要、進め方、チャペルアワー等と彰栄学園、建学の精神と歩み 2. 宗教の基礎知識、キリスト教信仰の基礎知識 カルトについて 3. 十戒と主の祈り 4. 旧約聖書の世界① 創世記～ルツ記 5. 旧約聖書の世界② サムエル記、歴代誌 6. 旧約聖書の世界③ 預言者たち イザヤ・エレミヤ等 7. 新約聖書の世界① 福音書 イエス・キリストの誕生と活動 8. 新約聖書の世界② 福音書 イエス・キリストの十字架と復活、使徒言行録 弟子たちの活動、使徒信条 9. 新約聖書の世界③ 書簡・黙示録、女性たち 10. 旧約聖書の世界④ ヨブ記、詩編、雅歌哀歌コヘレト 11. キリスト教会の歴史① 古代～中世 12. キリスト教会の歴史② 近・現代 13. 日本の教会の歴史 キリシタン～現代 14. 教会暦（行事）諸教派 カルトについて 15. 信仰者たちの足跡 試験				
単位認定の方法及び基準 講義への取り組み（30％）。 定期試験（70％）。 これらに受講態度も加えて総合的に判断する。				
学生へのメッセージ 建学の精神とキリスト教について、宗教、歴史、文化、思想など、あらゆる角度から掘り下げて学びます。基礎的教養の場として、自身の祈り、共感の心、価値観などを見つめなおす機会としてください。				
テキスト 毎回講義資料を配布します。 『聖書 聖書協会共同訳（2018 年発行）』日本聖書協会 『讃美歌・讃美歌 第二編』日本基督教団出版局			参考図書 必要に応じて紹介します。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 有 ） キリスト教プロテスタント教会の実務に携わる経験を持つ教員が、基礎教養科目として、キリスト教を切り口とした授業を行う。				

科目名 法学（日本国憲法）			担当教員 青木猛	
1 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 日本国憲法及び私たちの生活に関わる様々な法律について学ぶ。 1. 日本国憲法の意義や原理について理解する。 2. 基本的人権に関する学びを通して、日本国憲法の保障する権利、平等、自由について理解する。 3. 私たちの生活に、憲法を始め様々な法律が密接に関わっていることを理解する。 4. 日本の法制度について理解する。				
授業のねらい・概要 教職課程において必修とされている日本国憲法について理解を深める。また、憲法を頂点とした日本の法制度について学ぶとともに、様々な法律が私たちの生活に密接に関わっていることを理解する。				
授業の内容・進め方 1. オリエンテーション、法を学ぶことの意義、法制度に関する基本的事項 2. 日本国憲法（1）（個人の尊厳、基本的人権） 3. 日本国憲法（2）（子どもの権利、教師の権利） 4. 日本国憲法（3）（平等） 5. 日本国憲法（4）（思想・良心・信教の自由） 6. 日本国憲法（5）（表現の自由） 7. 日本国憲法（6）（学問の自由、教師の教育の自由） 8. 日本国憲法（7）（教育を受ける権利） 9. 日本国憲法（8）（自由権と社会権） 10. 日本国憲法（9）（国民主権と参政権） 11. 日本国憲法（10）（立法・行政・司法、平和主義） 12. 私たちの生活に関わる法律（1） 13. 私たちの生活に関わる法律（2） 14. 私たちの生活に関わる法律（3） 15. 私たちの生活に関わる法律（4） 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験の結果を 60%、中間で行う課題等の結果を 40% の割合で換算し、総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 学修の成果を高めるため、次のとおり事前・事後の学習を行うこと。 【事前学習】 各回のテキストの該当ページを一読する。 【事後学習】 各回の授業終了後、なるべく間を置かずに、配付資料やテキストの該当ページ、自分でノートなどに記録した内容を一読する。				
テキスト 西原博史・斎藤久編著『教職課程のための憲法入門 第3版』、弘文堂、2024 年			参考図書 授業時に適宜紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（ 無 ）				

科目名 体育理論			担当教員 眞鍋隆祐	
1 年次	後期	1 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 ヒトの発育発達を理解し、体育・スポーツ・身体活動をかんがえる、ひろげる、ふかめる				
授業のねらい・概要 誕生から死に至るまでのヒトの形態、機能、体力の変化と、それらと運動の関わりを理解する。また、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るために、運動やスポーツについての幅広い知識を身に付ける。それによって、子ども達の成長という現象を多角的に捉えるための目を培う。				
授業の内容・進め方 1. ヒトの成長の生物学的基礎 2. 発育発達の諸理論、体のつくりと働き 3. 発育発達と運動学習、特性論 4. 体力特性と加齢変化 5. 運動指導の実例と体育・スポーツ共創 6. 現代の体育・スポーツの特徴とスポーツ SDGs 7. 文化としての体育・スポーツの意義、豊かなスポーツライフの設計の仕方 8. まとめ 定期試験				
単位認定の方法及び基準 評価は期末試験を基本とし、授業への積極性も加えて評価する。評価比率は、授業中の課題提出や授業態度 60％、期末試験を 40％とする。				
学生へのメッセージ 各授業における積極的な態度も評価として考慮するので、些細な質問でも積極的にすること。				
テキスト 特定の教科書は使用しない		参考図書 『世界一ゆる～いイラスト解剖学 からだの動くしくみ』高橋書店 『「遊び」から考える体育の学習指導』創文企画 『よくわかるスポーツ文化論 [改訂版]』ミネルヴァ書房		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 有 ） 幼稚園でボールあそびや平均台、マット等の幼児体育実技指導に携わった経験を持つ教員が、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るために必要な、運動やスポーツに関する幅広い知識、技術を指導する。				

科目名 外国語コミュニケーション			担当教員 雨ヶ崎正志	
1 年次	後期	2 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育現場で使用する英語の単語と表現、コミュニケーションスキルを身につける。				
授業のねらい・概要 1. 保育者としての知識・英語 4 技能をバランスよく身につける。 2. 保育現場において外国人園児やその保護者とのコミュニケーションを円滑に行うことのできる力を養う。 3. 基本的な英文を通じて、基本的な文法を身につける。				
授業の内容・進め方 1. オリエンテーション・保育英語について 2. Grammar I（基礎的な知識） 3. （1）自己紹介①・（2）自己紹介② 4. （3）あいさつ （6）「どんな気分？」〈感情を表す形容詞を用いて〉 5. Grammar II（進行形） （5）「今、なにしているの」〈現在進行形を用いて〉 6. Grammar III（助動詞〈未来形を含む〉・命令文・Let's を使った表現） （8）自分がしていること・悪いこと〈命令文を用いて〉 7. Grammar IV（復習） ※ Grammar I～Grammar III （9）誘い 〈Let's ～を用いて〉 （15）外で遊ぼう！ 〈未来形を用いて〉 8. Grammar V（不定詞・動名詞）① 9. Grammar V（不定詞・動名詞）② （10）「今、何したい？」 〈不定詞を用いて〉 10. Grammar VI（過去形） （13）子供の褒め方 〈過去形を用いて〉 11. （4）体の症状を知る・相手に伝える 12. Grammar VII（復習） ※ Grammar V～Grammar VI グループ・コミュニケーション① 13. グループ・コミュニケーション② 14. 実践発表Ⅰ 単語・熟語テスト 15. 実践発表Ⅱ 文法テスト ※① 適宜に <i>Listening</i> を実施する ② 残った <i>unit</i> は、適宜にその中の表現を学習する				
単位認定の方法及び基準 後期試験 60% 小テスト・課題 20% コミュニケーション活動、発表 } ... 20% 授業に取り組む態度				
学生へのメッセージ 昨今の教育現場では英語が必須になっている。また、国際化の面から、最低限のスキルを身につけることより、多様化した保育現場に対応できる教員になってほしい。				
テキスト ‘ <i>Speaking of Childcare</i> ’ (保育学生のための英語コミュニケーション) 著者 <i>Peter Vincent</i> 中里 菜穂子 発行所 南雲堂			参考図書 幼保 英語検定 『4 級』・『3 級』 著 書 一般社団法人 幼児教育・保育英語検定協会 発行所 株式会社ブックフォレ	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (無)				

科目名 情報機器演習			担当教員 石川一郎	
1 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育にも、パソコン活用しよう。				
授業のねらい・概要 保育の中でパソコンなど情報機器を効果的に活用するために、パソコンなどの情報機器を扱う技術を身に付ける必要がある。保育素材などを用いた演習を行い、情報の収集、処理、活用の技能を身に付け、情報化社会に対応していくための基本的な能力を養う。				
授業の内容・進め方				
PC 操作編 ・パソコンの構造と機能について ・OS「Windows」の基礎知識と基本的操作		2. Excel の応用操作 基礎：園児名簿作成 発展：クラス集計表を作成してみよう		
Word 編 1. Word の基本操作 基礎：「保護者への書類」の作り方 発展：よりフォーマルな文書の作り方		3. データテーブルとピボットテーブル 基礎：園児名簿を検索してみよう 発展：身長・体重を集計しよう		
2. 表の作り方の基本 基礎：文書中に表を入れてみよう 発展：より複雑な表の作り方		4. グラフと印刷 基礎：グラフの種類と作成 発展：複雑なグラフと印刷		
3. 図や表の入った文書作成の基本 基礎：図や画像の入った文書の作成 発展：表の入った文書の作成		PowerPoint 編 1. PowerPoint の基本操作 基礎：自己紹介のスライドの作り方 発展：研究発表のスライドの作り方		
4. テキストボックスや段組みなど、総合的な Word の使い方とレイアウト 基礎：イラストの入ったおたよりの作成 発展：複雑なレイアウトの文書の作成		2. 図形の使い方 基礎：地図の作成 発展：緊急事態フローチャート		
Excel 編 1. Excel の基本操作 基礎：物品購入申込書の作成 発展：写真購入集計表を作成してみよう		3. 図・イラスト・表の配置やレイアウト 基礎：発表会プログラム 発展：運動会プログラム		
		4. 写真や動画のスライドショーの作り方 基礎：思い出のスライドショー 発展：手遊び動画のスライドショー		
単位認定の方法及び基準 毎時間の課題（50％） 授業内課題（50％）とし総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 学生諸君のこれまでの環境や生活経験の違いから、パソコンなど情報機器への興味・関心や扱い方の能力差が大きいことが予想される。パソコン初心者等を想定して、説明や演習を進めますが、解らないところは互いに教えあい、協力しながら、技術も身に付けて下さい。 実践演習を多く取り入れ、保育園や幼稚園などでの活用を考え、授業を致します。				
テキスト 渡邊裕編『これからの保育のための ICT リテラシー & メディア入門 Word/Excel/PowerPoint/ 動画編集』株式会社 みらい		参考図書 Word/Excel/PowerPoint については多くのハウツー本が市販されています。解りやすさも様々ですが、自分にあったものを選択しましょう。		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 有 ） 企業管理部での実社会経験（人事部・社員教育）、高校（公立・私立）情報処理指導、職場体験前のマナー講座講演、地域でのパソコン講座等の経験を活かし指導いたします。				

科目名 保育原理Ⅰ			担当教員 山梨有子	
1 年次	前期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 保育の原理的体系的な知識及び考え方を理解する。 1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。				
授業のねらい・概要 保育の理念や概念、制度などを体系的に学び、保育への理解を深める。 子どもの育ちを育むうえでの基本的な人権意識、子どもの発達理解、家庭や社会的背景をふまえた子育て支援を理解する。				
授業の内容・進め方 1. オリエンテーション 保育の理念と概念 保育の社会的役割と責任 2. 子どもの最善の利益と保育 3. 子ども家庭福祉と保育 4. 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令、子ども・子育て支援新制度 5. 保育の実施体系 6. 保育所保育指針(1) (保育所保育指針とは) 7. 保育所保育指針(2) (保育所保育に関する基本原則) 8. 保育所保育指針(3) (保育における養護) 9. 保育所保育指針(4) (保育の目標) 10. 保育所保育指針(5) (保育の内容) 11. 保育所保育指針(6) (保育の環境・方法) 12. 保育所保育指針(7) (子どもの理解に基づく保育の過程 (計画・実践・記録・省察・評価・改善) とその循環) 13. 諸外国及び日本の保育の思想と歴史 14. 諸外国の保育の現状 15. 日本の保育の現状と課題 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験 (70%)、授業における課題 (30%) とし、総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 保育者としての根本的な原理を学んでいきます。時事情報などにも興味をもち、社会の中での保育者の役割についての理解を深めていきましょう。また、他者との対話を通して保育観を培えるよう、グループワーク等に積極的に参加することが望まれます。自分の考えたことや他者から学んだことをノートに取り、整理する習慣をつけることで考えが深めていきます。				
テキスト 特になし		参考図書 『幼稚園教育要領』(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 『保育所保育指針』(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (有) 保育実践経験がある教員が、保育の基礎知識を概観する授業を行う。				

科目名 教育の原理と制度			担当教員 伊藤智行	
1 年次	前期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 教育学の基本的な知識と考え方を学ぶことが目的である。教育の意義・目的、教育の基礎的概念、理論、歴史、制度等について知ること、教育に関する体系的知識を習得する。また、子ども家庭福祉との関連性を理解し、基礎的な実践原理や指導原理に関して理解する。さらに、現代の生涯学習社会における教育の在り方について考察する。最終的には、教育に関して幅広い考え方ができるようにすることが目標である。				
授業のねらい・概要 「教育」とは、どのような営みかを常に考えながら授業を進める。教育の基本的な知識を身に付けた上で、「教育を受ける立場」から「教育をする立場」に立つことを考えながら発想の転換を図り、教育に関する幅広い思考を獲得することを目指す。				
授業の内容・進め方 1. 教育の意義 2. 教育の目的 3. 乳幼児期の教育の特性 4. 教育と子ども家庭福祉の関連性 5. 人間形成と家庭・地域・社会等との関連性 6. 諸外国の教育思想と歴史 7. 日本の教育思想と歴史 8. 子ども観と教育観の変遷 9. 教育制度の基礎 10. 教育法規・教育行政の基礎 11. 諸外国の教育制度 12. 教育実践の基礎理論－内容・方法・計画と評価－ 13. 教育実践の多様な取り組み 14. 生涯学習社会と教育 15. 現代の教育課題 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、授業におけるレポート課題の評価（30%）				
学生へのメッセージ 「教育」とは、どのような営みかを常に考えながら授業を進めていきたい。「教育を受ける立場」は誰でもが経験してきているが、今度は「教育をする立場」に立った場合を考えていくことで、発想の転換を図り、幅広い思考を獲得してほしい。授業は、テキストや適宜資料を配布して進める。また、テーマによっては、グループワークや発表を取り入れていく。				
テキスト 『コンパクト版 保育者養成シリーズ 教育原理』（石橋哲成編著、一藝社）			参考図書 『教育のための教育原理の現状と課題』（山室吉孝編著、大学図書出版） その他、授業時に適宜紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（ 無 ）				

科目名 子ども家庭福祉			担当教員 藤澤麻里	
1 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 子ども家庭福祉の意義、制度、現状、動向等を学ぶ 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。				
授業のねらい・概要 子ども家庭福祉の専門職である保育士にとって、子ども家庭福祉全般についての知識や役割等の理解は必要不可欠である。この授業では子ども家庭福祉の意義、歴史、法律、制度、サービス等の体系を学ぶとともに、現状と課題を把握し、その動向と展望等についても理解を深めていきたい。また、子どもの人権尊重のあり方や保育士の役割、特に関係機関との連携と子ども・家庭への援助方法についても取り上げていきたい。				
授業の内容・進め方 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷 1. 子ども家庭福祉の理念と概念 2. 子ども家庭福祉の歴史の変遷 / 現代社会と子ども家庭福祉 子どもの人権擁護 3. 子どもの人権擁護の歴史の変遷 / 児童の権利に関する条約 4. 子どもの人権擁護と現代社会における課題 子ども家庭福祉の制度と実施体系 5. 子ども家庭福祉の制度と法体系 6. 子ども家庭福祉の実施体系 7. 児童福祉施設 / 子ども家庭福祉の専門職 子ども家庭福祉の現状と課題 8. 少子化と地域子育て支援 / 母子保健と子どもの健全育成 9. 多様な保育ニーズへの対応 10. 子ども虐待・DV とその防止 / 社会的養護 11. 障害のある子どもへの対応 / 少年非行等への対応 12. 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 子ども家庭福祉の動向と展望 13. 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 14. 地域における連携・協働とネットワーク 15. 諸外国の動向・まとめ				
単位認定の方法及び基準 定期試験、提出物、授業への取り組みを総合して評価する。基礎知識の理解度を重視して試験 80%、その他 20% 程度の割合とする。				
学生へのメッセージ 子どもの健やかな育ちを支え、家庭を支援するために必要な福祉理念、法律、制度、実践について授業を通して学び、考えながら、理解を深めて欲しい。				
テキスト 喜多一憲監修・堀場純矢編 『子ども家庭福祉』(株) みらい			参考図書 授業中に適宜紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (有) 保育現場に勤務した経験を持つ教員が、保育者になるために必要な子ども家庭福祉の知識、保育者としての視点について事例を紹介しながら授業を行う。				

科目名 社会福祉			担当教員 長田淳子	
1 年次	前期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 保育者として理解しておかなければならない社会福祉の基本について学ぶ。 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。				
授業のねらい・概要 子育て家庭のニーズの多様化・複雑化が進む中で、保育者に求められている社会福祉領域全般にわたる幅広い知識・技術と、社会福祉の現状や課題などに対する考察力・判断力の習得を目指して授業を行う。				
授業の内容・進め方 1. オリエンテーション、社会福祉の理念と概念、社会福祉の歴史の変遷 2. 社会福祉の現代的課題・地域共生社会の実現のための取組 3. 子ども家庭支援と社会福祉 4. 社会福祉の制度と法体系 5. 社会福祉行財政と実施機関 6. 社会福祉施設、社会福祉の専門職 7. 社会保障及び関連制度の概要 8. 相談援助の理論 9. 相談援助の意義と機能 10. 相談援助の対象と過程、相談援助の方法と技術 11. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 12. 少子高齢化社会における子育て支援 13. 共生社会の実現と障害者施策 14. 在宅福祉・地域福祉の推進 15. 諸外国の社会福祉の動向、全体の振り返り 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験の結果を 60%、中間で行う課題等の結果を 40% の割合で換算し、総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 学修の成果を高めるため、次のとおり事前・事後の学習を行うこと。 【事前学習】 各回のテキストの該当ページを一読する。 【事後学習】 各回の授業終了後、なるべく間を置かずに、配付資料やテキストの該当ページ、自分でノートなどに記録した内容を一読する。				
テキスト 公益財団法人児童育成協会監修『新基本保育シリーズ④「社会福祉」第 2 版』、中央法規出版、2023 年			参考図書 授業時に適宜紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 無 ）				

科目名 社会的養護Ⅰ			担当教員 齊藤隆之	
1 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 保育者として理解しておかなければならない社会的養護の基本について学ぶ。 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系、対象や形態、関係する専門職等について理解する。 4. 社会的養護の現状と課題について理解する。				
授業のねらい・概要 社会的養護とは、様々な事情によって家庭で生活することが難しい子どもを、公的な責任で社会的に育て、保護するとともに、子どもを育てることが難しい事情がある家庭を支えていく仕組みである。保育者に求められている社会的養護に関する基本的かつ専門的な知識と、社会的養護の現状や課題などに対する考察力・判断力の習得を目指して授業を行う。				
授業の内容・進め方 1. オリエンテーション、社会的養護とは 2. 社会的養護の理念・概念 3. 社会的養護の歴史の変遷 4. 子どもの人権擁護と社会的養護、社会的養護の基本原則 5. 社会的養護における保育士等の倫理と責務 6. 社会的養護の制度と法体系 7. 社会的養護の仕組みと実施体系 8. 社会的養護とファミリーソーシャルワーク 9. 社会的養護の対象 10. 家庭養護 11. 施設養護 12. 社会的養護に関わる専門職 13. 社会的養護に関する社会的状況 14. 施設等の運営管理、被措置児童等の虐待防止 15. 社会的養護と地域福祉、全体の振り返り 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験の結果を 60%、中間で行う小テスト、課題等の結果を 40% の割合で換算し、総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 学修の成果を高めるため、次のとおり事前・事後の学習を行うこと。 【事前学習】 各回のテキストの該当ページを一読する。 【事後学習】 各回の授業終了後、なるべく間を置かずに、配付資料やテキストの該当ページ、自分でノートなどに記録した内容を一読する。				
テキスト 原田句哉・杉山宗尚編著『図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅰ」第2版』、萌文書林、2024 年			参考図書 授業時に適宜紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（無）				

科目名 教育心理学			担当教員 高木友子	
1 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 子どもの心身の発達と学習について、その特徴を理解し、発達を踏まえた学びを援助するための基本的な考え方を身に付ける。				
授業のねらい・概要 子どもの発達と学習の理論と様相を理解する。				
授業の内容・進め方 1. 子どもはいかに有能か 2. 母子相互作用の不思議 3. 子どもは変わる・大人も変わる―人間発達の可塑性・心身の発達 4. 世界認識の始まり―認知発達 5. 個性の育ち―気質・自己意識・社会性・情動 6. ことばを獲得し、意味世界に生きる―象徴機能の成立と言語発達 7. ことばで交わり・考える―言語の機能と会話の発達 8. 記憶し想起する心の発達 9. 思いやる心―心の理論の成立・自己と他者の理解 10. 友と関り遊びの世界を楽しむ心―遊びの発達と遊びからの学び 11. 想像する心の育ち―思考と語りの成立過程 12. 科学する心の芽生え 13. 生活世界から学びの世界へ 14. 子どもの発達と学びを支える 15. 振り返りと試験 定期試験				
単位認定の方法及び基準 期末試験（70%）、小テスト（30%）				
学生へのメッセージ 極力欠席をなくし、試験勉強に真面目に取り組むこと。				
テキスト 『よくわかる乳幼児心理学』（内田伸子編、ミネルヴァ書房）			参考図書 授業内で配布または紹介	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（無）				

科目名 発達心理学			担当教員 政近彩子	
1 年次	前期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 子どもの発達に関する知識と考え方を学び、保育現場での子どもを理解する。				
授業のねらい・概要 特に乳幼児期の発達を理解するための基礎的知識の習得を目指し、具体的な子どもへの関わりのあり方について考察できる授業を展開する。				
授業の内容・進め方 1. 発達心理学を学ぶ目的と方法 2. 発達の理論と発達の個人差 3. 初期経験の重要性 4. 発達課題の理解 5. 胎児期の発達 6. 新生児期の発達 7. 乳児期から児童期の運動発達 8. 乳児期から児童期の言語発達 9. 乳児期から児童期の認知発達 10. 乳児期から児童期の社会性発達 11. 乳児期から児童期の情動発達 12. 青年期の発達 13. 成人期の発達 14. 老年期の発達 15. 生涯発達の観点からみた人間の一生 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、小テスト・小課題の評価（30%）				
学生へのメッセージ 授業は、出席と授業態度を重視します。講義の中でグループワークなどを行いますので、皆さんの積極的な参加を希望しています。				
テキスト 『手にとるように発達心理学がわかる本』（小野寺敦子著、かんき出版）			参考図書 授業時に配布または紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 中学校における心の教室相談員、精神保健福祉センターにおける精神科救急医療相談員の経験を有する教員が、その経験を活かし、発達心理学について授業を行う。				

科目名 子どもの保健			担当教員 小林久美子	
1 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 1. 子どもの心身・健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法および他職種の連携・協働の下での適切な対応について理解する。				
授業のねらい・概要 乳幼児期の子育てを取り巻く状況を知り、子どもの発育・発達における課題を理解する。また、生命の誕生・子どもの発育・発達・生理機能について学び、医学的知識を獲得する。さらに、子どもの病気とその予防について理解し、実践する力を身につける。				
授業の内容・進め方 【子どもの心身の健康と保健の意義】 1. 保健活動の意義と目的 2. 現代における子どもの健康と保健活動 【子どもの身体的発育・発達と保健】 3. わたしたちの体と身体発育 4. 運動機能・生理機能の発達 5. 感覚器・精神機能の発達 【子どもの心と体の健康状態の把握】 6. 発育・発達の把握と健康診断／保育者との情報共有 7. 子どもの健康状態の観察／体調の良くない子どもへの対応 【子どもの病気の予防と適切な対応】 8. 子どものかかりやすい感染症（1） 9. 子どものかかりやすい感染症（2） 10. 感染予防と対応—予防接種 11. その他の子どもの病気（1）アレルギー疾患 12. その他の子どもの病気（2）その他のアレルギー疾患 13. その他の子どもの病気（3）その他の病気／乳幼児突然死症候群 14. その他の子どもの病気（4）先天異常 【保育における保健】 15. 職員の健康管理 / まとめ 期末試験				
単位認定の方法及び基準 期末試験と授業への取り組みを総合して評価する 評価の比率は期末試験（70％） 課題・提出物（20％） 授業態度（10％）とする。				
学生へのメッセージ 子どもの健康や病気、事故の対応のみならず、予防の視点をもって、子どもたちの豊かな感性と健やかな成長と発達に責任をもって関わられるようになって欲しい。そして子どもの笑顔を引き出しましょう。				
テキスト これだけはおさえたい！ 保育者のための「子どもの保健」改訂版 創成社			参考図書 必要があれば授業中に紹介する	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 有 ） 医療現場・保健センターで乳幼児看護・健康診断等業務経験がある教員が、現場経験を通して身につけておく必要のある内容について授業を行う。				

科目名 保育・教育課程論			担当教員 伊藤智行	
1 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 保育・教育課程編成の基礎事項を学び、計画と実践についての関係を理解する。				
授業のねらい・概要 保育の計画の全体構造を捉え、理解できるようにする。また、保育・教育課程の編成と指導計画の作成、評価の意義について具体的に学び実践する基礎を身に付ける。				
授業の内容・進め方 1. 保育・教育課程編成の基本原則とカリキュラムの基礎理論 2. 保育・教育課程編成における計画と評価の意義 3. 子ども理解に基づく保育・教育課程の循環による保育の質の向上 4. 「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容及び社会的背景、並びに保育の目標と計画の基本的な考え方 5. 「教育課程」・「全体的な計画」と「指導計画」の関連性とカリキュラム・マネジメント 6. カリキュラム・マネジメントの意義 7. 幼稚園における指導計画（長期的・短期的）の作成 8. 保育所における指導計画（長期的・短期的）の作成 9. 認定こども園における指導計画（長期的・短期的）の作成 10. カリキュラム・マネジメントに基づいた指導計画作成上の留意事項 11. カリキュラム・マネジメントに基づく保育の柔軟な展開 12. 保育の記録及び省察 13. 保育者の自己評価 14. 保育の質向上に向けた改善の取組 15. 生活と発達の連続性を踏まえた幼稚園幼児指導要録と保育所児童保育要録等 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（60%）、授業内での課題の評価（20%）、課題レポート（20%）				
学生へのメッセージ 保育の計画について、グループワークを中心に理論、指導案作成、実践を学びます。子どもにとってのふさわしい保育の計画を理解していきます。				
テキスト 『教育課程・保育の計画と評価－書いて学べる計画と評価』（岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正著、萌文書林）			参考図書 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（ 無 ）				

科目名 保育指導法総論			担当教員 野見山直子	
1 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 子ども理解を基礎にした保育内容、及び保育の方法や技術を総合的に学び、豊かな子どもの育ちを支える保育の視点を持つ。				
授業のねらい・概要 保育所、幼稚園、認定こども園における保育内容についての構造、歴史的変遷を理解する。保育内容、及び保育の方法や技術と保育計画の基礎を学び、子ども理解を踏まえた保育を営む視点を養う。保育のニーズや課題について学び、考察する。				
授業の内容・進め方 1. 保育の全体構造と保育内容 2. 保育の内容の歴史的変遷と社会背景 3. 保育の方法に関する基礎的理論と実践の理解 4. 主体的・対話的で深い学びを実現するための保育の在り方（子どもの主体性を尊重した保育） 5. 子どもの発達や生活に即した保育内容を構成する基礎的な考え方の理解 6. 育みたい資質・能力と子ども理解に基づいた評価の考え方 7. 個と集団の発達と保育内容 8. 養護及び教育が一体的に展開する保育 9. 環境を通して行う保育 10. 生活や遊びにおける情報機器等の教材を活用した保育技術の理解と実践 11. 保育指導案作成のための基礎理論 12. 情報機器を活用した家庭・地域との連携を踏まえた保育 13. 小学校との連携を踏まえた保育 14. 長時間の保育及び特別な支援を必要とする子どもの保育 15. 多文化共生の保育 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、授業内での課題（30%）				
学生へのメッセージ 積極的にグループワークやディスカッションに参加し、自分の子ども観、保育観の視野を広げて欲しい。また、日常においても保育に関する情報にアンテナを張り、現在の保育の課題について敏感になって欲しい。				
テキスト 『マンガとアクティブラーニングで学ぶ 保育内容総論』（開仁志編著、教育情報出版）			参考図書 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 幼稚園教諭経験のある教員が実践事例を用い、幼児理解を踏まえた保育計画の立て方、指導・援助の在り方についての授業を行う。				

科目名 環境指導法			担当教員 板東 愛理香	
1 年次	後期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 自然をはじめとする身近な環境との関わりについて学び、その教育的意義について理解を深める。				
授業のねらい・概要 遊具や玩具、栽培方法や食育の意義とその支援方法を探る。さらに、子どもをとりまく自然環境や社会環境などの成り立ちを保育者として客観的にとらえ、環境の持つ教育力について考察する。また、外遊びによって五官が刺激され、身体と頭を使うことによって心が豊かに育っていく意義についても考察する。				
授業の内容・進め方 1. 環境と子どもの活動～栽培活動と情報・機器等を活用した管理 2. 環境と子どもの活動～動物飼育と情報・機器等を活用した管理 3. 環境と子どもの活動～伝統遊びにおける多様な教材の活用 4. 環境と子どもの活動～数と形における多様な教材の活用 5. 環境と子どもの活動～動物園での学外授業 6. 領域「環境」のねらいと「身近な環境と子どもの生活、活動」 7. 園外保育の方法と設計 8. 自然現象と社会～自然現象のとらえ方 9. 自然現象と社会～自然現象が社会環境に与える影響 10. グループ活動での模擬保育～自然環境について 11. グループ活動での模擬保育～自然保全について 12. グループ活動での模擬保育～自然とふれあう際の安全指導について 13. グループ活動での模擬保育～子どもの遊びと文化について 14. グループ活動での模擬保育～絵本を用いた環境教育について 15. まとめ～環境と子ども、保育者のかかわり・人的環境としての保育者 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、課題レポート提出（30%）				
学生へのメッセージ 子どもは遊びをとおして自分をとりまく環境の中でさまざまな刺激を受けています。 園内環境はその意味で重要な環境です。保育者は子どもにとって大きな影響力をもつ人的環境であることをよく認識して、さまざまな体験をさせて下さい。 授業は全出席が基本です。欠席した学生は必ず自らをフォローすること。積極的に授業に参加し、大人としての態度と行動を望みます。テキスト以外の内容もあります。ノートをとること。特に復習は重要です。時に小テストなどもあります。				
テキスト 『シードブック 保育内容 環境〔第3版〕』（榎沢良彦・入江礼子編著、建帛社）			参考図書 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育士経験のある教員が実例を多く取り入れ、子どもと環境の関係、子どもの成長を支えていく環境の工夫・援助の在り方についての授業を行う。				

科目名 表現指導法Ⅰ A			担当教員 鳴原晶子	
1 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 「表現」領域のねらいと内容を理解する。また感性の育ちや「感じて考えて行動する」表現の営みを理解する。				
授業のねらい・概要 造形表現を通して表現の発達過程を理解し、さらに音楽、身体、言葉を加えた遊びの演習をすることで表現活動での指導・援助のあり方を考える。				
授業の内容・進め方 第 1 回：「表現」のねらいと概要 第 2 回：遊びを通して導かれるもの ― 表現領域の捉え方 第 3 回：遊びを通して導かれるもの ― 音・形・色 第 4 回：描画や技能の発達過程の理解と指導・援助のあり方 第 5 回：幼稚園の実例を通して ― 生活と遊び・行事と造形活動 第 6 回：遊びを通して導かれるもの ― 素材を生かしたゲームを楽しむ 第 7 回：遊びを通して導かれるもの ― 言葉と音・リズムの関連性の理解 第 8 回：表現遊びの実例 ― 楽器の特徴の理解と体験 第 9 回：表現遊びの実例 ― 音と動きの関連性の理解 第 10 回：視聴覚教材を用いて ― 各領域の表現あそびと子ども理解 第 11 回：視聴覚教材を用いて ― 表現あそびの援助のあり方 第 12 回：情報機器を用いて ― グループ制作 第 13 回：表現活動の模擬保育を考える 第 14 回：表現活動の模擬保育から改善点を知る 第 15 回：表現活動での援助のあり方 ― グループディスカッション 定期試験				
単位認定の方法及び基準 平常点〈積極性・主体性・理解度・ワークシート〉（50％）、定期試験（50％）を基準にした総合的評価とする。				
学生へのメッセージ 意欲的に表現を行なう姿勢が大切です。そこから子ども理解と表現の楽しさを体感しましょう。				
テキスト 汐見稔幸、大豆生田啓友 監修(2020)『アクティベート保育学① 保育内容「表現」』ミネルヴァ書房			参考図書 『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 無 ）				

科目名 表現指導法ⅠB			担当教員 松岡綾葉	
1 年次	後期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 「表現」の領域のねらいと内容を理解する。また、子どもの表現力を育てるための保育者の役割を理解する。				
授業のねらい・概要 音楽と身体表現を用いた表現を実践的に学ぶ。身体運動の中にあるリズムを楽しむとともに、保育の現場で音楽リズムを活用する方法を実践し、表現についての基本的な考えを理解する。また、保育における豊かな表現的環境づくりについて考察する。				
授業の内容・進め方 1. 「表現」のねらいと内容について 2. 子どもの発育・発達と身体表現について 3. 幼児期の表現活動と小学校の諸科目との学びの連続性について 4. 情報機器等を活用した模擬保育の実践 －五感を使った表現活動（リズム遊び入門） 5. 情報機器等を活用した模擬保育の実践 －身体を用いた表現活動①手遊び・からだあそび 6. 情報機器等を活用した模擬保育の実践 －身体を用いた表現活動②音まねっこ・リズムまねっこ 7. 情報機器等を活用した模擬保育の実践 －自然や自然物を用いた表現活動 8. 情報機器等を活用した模擬保育の実践 －季節の行事に関連した表現活動 9. 情報機器等を活用した模擬保育の実践 －新聞紙など身近な素材を用いた表現活動 10. 情報機器等を活用した模擬保育の実践 －インクルーシブ保育における表現活動 11. 表現活動や遊びを広げるための情報機器等を活用した教材研究 12. 情報機器等を活用した模擬保育 －グループ学習での指導案作成 13. 情報機器等を活用した模擬保育 －グループ学習での教材研究 14. 情報機器等を活用した模擬保育 －グループ発表での実践発表 15. 保育の場における豊かな表現的環境づくりについての考察 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（40%）、授業内での実技評価（30%）、振り返りシートの評価（30%）				
学生へのメッセージ 大人である私たちも、好きな音楽を聴けば自然に身体が動く。自身が持つ「リズムを楽しむ能力」を呼び覚まし、トレーニングする機会にしたいと考えている。積極的な参加を期待する。				
テキスト 適宜、印刷物を配布する。		参考図書 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育園における運動あそび（身体表現あそびを含む）の指導経験を持つ教員が、子どもの身体を用いた表現あそびやその指導方法を解説する。				

科目名 子どもと健康			担当教員 眞鍋隆祐	
1 年次	後期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 領域「健康」の指導の基盤となる知識、技術を身に付ける。				
授業のねらい・概要 子どもの心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達などに関して、大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。				
授業の内容・進め方 1. 乳幼児期の健康問題 2. 健康の定義と乳幼児期の健康の意義 3. 乳幼児を取り巻く生活環境と健康 4. 乳幼児の心身の発達の特徴 5. 乳幼児の生理機能の発達 6. 乳幼児の生活習慣の形成 7. 乳幼児の生活リズムの形成とその意義 8. 乳幼児の安全教育 9. 危険に関するリスクとハザード 10. 乳幼児期の運動発達の特徴 11. 幼児期の「多様な動き」の意味 12. 日常生活における運動 13. 社会の変化と生活の中の動き 14. 遊びとしての運動 15. 保育における身体活動 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70％）、授業中の課題提出（30％）				
学生へのメッセージ 乳幼児期は生涯にわたって健康的な生活を送る基となる習慣を、遊びや生活を通して身に付ける重要な時期です。自分ならどのようにかわるだろうかと考えながら授業に臨んでいただきたい。				
テキスト 『新しい保育講座 7 保育内容「健康」』 ミネルヴァ書房			参考図書 適宜、参考資料を配布する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 幼稚園でボールあそびや平均台、マット等の幼児体育実技指導に携わった経験を持つ教員が、領域「健康」の基盤となる、子どもの心身の発達や基本的生活習慣、安全な生活、運動発達などに関して、知識、技術を指導する。				

科目名 子どもと環境			担当教員 板東 愛理香	
1 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 領域「環境」の指導の基盤となる知識、技術を身に付ける。				
授業のねらい・概要 野外の自然環境や生き物の姿を知ることを通して自然の環境についての認識を深めると共に、乳幼児の生活のすべてである遊びの実態を捉え、活動の場である園内外の環境について考察する。				
授業の内容・進め方 1. 「環境」のもつ人間形成に果たす役割と意義 2. 「環境」のねらいと内容 3. 「環境」の基本的理解～身のまわりの自然 4. 「環境」の基本的理解～自然と生活文化 5. 「環境」の基本的理解～数と形 6. 「環境」の基本的理解～自然の生態系 7. 環境調査の方法と実践～自然観察の方法 8. 環境調査の方法と実践～植物園での学外授業 9. ふりかえり「身の回りの自然の見方」 10. 環境と子どもの活動～子どもと自然のふれあい、植物と動物 11. 環境と子どもの活動～植物と子どもの遊び 12. 製作活動の意義と内容～伝統的な草花あそびと草玩具 13. 製作活動の意義と内容～身近な素材の活用 14. 園内環境～保育室、廊下、テラス、遊戯室 15. 園内環境～園庭、遊具、樹木 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、課題レポート提出（30%）				
学生へのメッセージ 子どもは周りの環境からさまざまなことを学びながら、生きる力を育んでいきます。 自然は生きていくための基本的環境であり、学びの原点とも言えます。保育者を目指す人として日ごろから身近な自然や生きものに親しみ、自らの感性を高めて下さい。 授業は全出席が基本です。欠席した学生は必ず自らフォローすること。積極的に授業に参加し、大人としての態度と行動を望みます。テキスト以外の内容もあります。ノートをとること。特に復習は重要です。時に小テストなどもあります。				
テキスト 『シードブック 保育内容 環境〔第3版〕』（榎沢良彦・入江礼子編著、建帛社）			参考図書 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育士経験のある教員が実例を多く取り入れ、子どもと環境の関係についての授業を行う。				

科目名 身体表現			担当教員 松岡綾葉	
1 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 領域「表現」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、乳幼児の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。身体表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、乳幼児の表現を支えるための感性を養う。				
授業のねらい・概要 子どもたちが面白いと感じる運動遊びや表現活動を引き出すことのできる指導者となることを目指す。そのために、子どもたちの発育発達段階、状況に応じた運動遊びの選択、環境の設定、指導と援助の実践的方法を身に付ける。また、様々な運動遊びに触れ、指導者としての幅を広げる。				
授業の内容・進め方 1. 身体表現の理論的背景 2. まねっこ遊び、ごっこ遊びの指導法 3. まねっこ遊び、ごっこ遊びの指導案作成、発表及び評価 4. 鬼遊び、ボールを使った身体表現の指導法 5. 鬼遊び、ボールを使った身体表現の指導案作成、発表及び評価 6. マットや器具を使った運動遊びの指導法 7. マットや器具を使った運動遊びの指導案作成、発表及び評価 8. 音楽を使ったりズム遊びの指導法 9. 音楽を使ったりズム遊びの指導案作成、発表及び評価 10. 短い時間で行う身体表現の指導法 11. 短い時間で行う身体表現の指導案作成、発表及び評価 12. 運動遊びサーキットの指導法 13. 運動遊びサーキットの指導案作成、発表及び評価 14. なわを使った身体表現の指導法 15. なわを使った身体表現の指導案作成、発表及び評価 定期試験				
単位認定の方法及び基準 授業中の課題提出（50％）、指導実践の成果（25％）、定期試験（25％）				
学生へのメッセージ グループ活動が非常に多い科目なので、クラスメートとコミュニケーションをしっかりと取り活動を円滑にするめよう心がけること。				
テキスト 『現場発！0～5歳児 遊びっくり箱』ひかりのくに		参考図書 適宜、参考資料を配布する。 『みんなが輝く体育（1） 幼児期 運動あそびの進め方』創文企画 『幼児体育』健帛社		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 親子体操教室、親子スポーツ教室での指導経験を有する教員が、子どもたちが面白いと感じる運動遊びや表現活動を引き出すことのできる指導者となるために必要な環境の設定、指導と援助の実践的方法について、指導をする。				

科目名 音楽表現ⅠA			担当教員 桐原明子	
1 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 領域「表現」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境などについて実践的に学び、乳幼児の音楽表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。特に、音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、乳幼児の表現を支えるための感性や実践力を養う。				
授業のねらい・概要 乳幼児期の表現の発達を理解すると同時に、保育の様々な場面を想定し子どもたちの音楽表現に合わせた音楽実践を通して保育を構想する方法を身に付ける。また、保育者として現場における豊かな音楽表現（ピアノ演奏や歌唱など）の前提となる楽譜を自力で読むための規則について、実技も交えながら学ぶ。				
授業の内容・進め方 1. 領域「表現」と音楽表現（音楽表現の学び方とその目的） 2. 楽譜を読むための基礎①音符の読み方 3. 楽譜を読むための基礎②リズム打ち 4. 楽譜を読むための基礎③音休符の長さとりズム・拍子 5. 楽譜を読むための基礎④拍子・弱起・変化記号・反復記号 6. 楽譜を読むための基礎⑤調性・音階について 7. 楽譜を読むための基礎⑥主要三和音について 8. 子どもの音楽表現―弾き歌い①生活のうた 9. 子どもの音楽表現―弾き歌い②季節のうた 10. 子どもの音楽表現―弾き歌い③行事のうた 11. 子どもの音楽表現―弾き歌い④子どもの讃美歌 12. 知らない曲にチャレンジする⑤チャペルアワーで歌う讃美歌 13. 乳幼児期の音楽表現と感性 14. 身の回りの音、声、器楽による音楽遊び 15. 子どもの発達に即した音遊びとりズム遊び 定期試験				
単位認定の方法及び基準 授業における実技への取り組み（発表含む）：50%、各種小テスト（実技、筆記）50%、定期試験はまとめの課題提出（個別指導含む）。この課題提出をもって単位を認定する。				
学生へのメッセージ まず、授業開始前に使用テキストをそろえ、着席しておくこと。 音楽は実践と反復練習が命。毎回真剣に、集中して授業に参加してほしい。 人の前で表現することに慣れるため、全4回の「発表」の機会を設ける。保育現場を想定し、子ども達の歌や動きにあわせて表現する（流れを止めない）ことを目標にする。課題曲は音楽表現Ⅱ（ピアノ）の授業で個別指導を受け、十分に準備すること。 資料を貼るためにA4サイズのスケッチブックを使用する。授業でも説明するが、早めに準備しておくこと。 *実技への参加が重要であるため、下記事項は減点対象とする ①自分の教科書・資料を持ってこない者 ②取り組みが不十分な者（あからさまな居眠り、スマホなど授業に無関係な機器の使用、私語を含む）				
テキスト 『楽譜が読めるステップ12』（甲斐彰著、音楽之友社）、『やさしい伴奏によるこどものうた①』（東保編、全音楽譜出版社）、『こどもの歌名曲選』（足羽章解説、ドレミ楽譜出版社）、『讃美歌』（日本基督教団出版局）			参考図書 その他、適宜資料を配布する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（ 無 ）				

科目名 音楽表現ⅠB			担当教員 倉林公美	
1 年次	後期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 領域「表現」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、乳幼児の音楽表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。特に、保育現場で子どもたちと歌うための声楽分野の初歩を学ぶことを通し、乳幼児の表現を支えるための感性を養う。				
授業のねらい・概要 弾き歌いのための発声法、歌唱法を学び、乳幼児期の表現の発達を踏まえて、子どもの歌を楽しみ、表現豊かに歌えるようにする。また、音楽表現として子どもたちに歌唱指導をする際の基礎的技術や歌唱指導計画立案のための基礎的知識を身に付ける。				
授業の内容・進め方 1. 領域「表現」と歌唱表現 2. 手遊び、リズムを導入した遊びうた、生活のうた、歌の基本姿勢、発声法 3. 歌唱表現の基礎①春のうたを通して 4. 歌唱表現の基礎②夏のうたを通して 5. 歌唱表現の基礎③秋のうたを通して 6. 歌唱表現の基礎④冬のうたを通して 7. 弾き歌い発表 8. 歌唱における伴奏法の基礎と対策（定期試験、実習に向けて） 9. 讃美歌の基礎的知識（幼児讃美歌、クリスマス讃美歌） 10. 歌唱表現の基礎⑤動物のうたを通して 11. 歌唱表現の基礎⑥行事のうたを通して 12. 歌唱指導のための基礎的技術と知識 13. 歌唱指導計画立案のための基礎的知識 14. 歌唱指導計画立案のためのグループ学習 15. 歌唱指導計画立案のグループ発表 定期試験				
単位認定の方法及び基準 授業内での課題の評価（40%）、定期試験（30%）、授業中のグループ学習発表（30%）				
学生へのメッセージ 様々な曲や表現方法に出合うことで歌うことの楽しみを見つけてほしい。自身の歌唱技術や表現力を高めていけるように積極的に授業に参加すること。歌うことに苦手意識を持っている学生も、授業の中で自分に合った克服方法を見つけ、少しずつ自信をもって歌えるようになるとよい。				
テキスト 『やさしい伴奏によるこどものうた①』（東保編、全音出版）、『子どもの歌名曲選』（足羽章編、ドレミ楽譜出版）、『讃美歌』（日本基督教団出版局）、『幼児さんびか』（キリスト教保育連盟）			参考図書 その他、適宜プリントを配布する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（無）				

科目名 音楽表現Ⅱ			担当教員 桐原明子・今石明子・佐倉藍・ 佐々木純子・清水絵美・菅原ユリ・ 橋本美香・水上まり	
1 年次	通年	2 単位	選択必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育のためのピアノと弾き歌い―基礎技術の習得				
授業のねらい・概要 保育現場における音楽表現の土台となるピアノの基礎技術、童謡伴奏および弾き歌いを学ぶ。90 分約 5 名の個人指導である。担当教員が各学生の入学前の音楽経験や進度にあわせて指導を行う。				
授業の内容・進め方				
前期：15 回の個人指導でピアノの基礎技術を学ぶ。 1. 読譜の確認 2. 楽器（ピアノ）について 3. 指の体操と運指の基礎 4～5. ピアノ曲を弾くための練習と手順 6～7. 曲を仕上げるということ（暗譜を含む） 8～9. 活動に合わせた曲を弾く（マーチ他） 10～11. ピアノで歌うこと（カンタービレ奏法） 12～13. 保育の中のピアノ（役割と特徴） 14～15. 人前で仕上げた曲を演奏する（授業内試験）			後期：15 回の個人指導で童謡伴奏・弾き歌いを中心にピアノと歌の表現技術を身につける。 1. 生活の歌：「おはよう」～「おかえり」 2～4. 弾き歌いの練習と実践 5～7. 童謡伴奏の基礎と応用 8～10. アンサンブル（歌とピアノ）の基礎と実践 11～12. 複数の曲を同時に仕上げること 13. 保育の中で弾く（弾き歌いする）こと 14～15. 人前で発表すること（歌・弾き歌い・伴奏・授業内試験）	
教本・『基礎から学べるピアノ 1. 2. 3』 ドレミ楽譜出版社 ・その他（各担当教員の指示に従う。）			教本・前期からの継続教材 ・『やさしい伴奏によるこどものうた①』 全音楽譜出版社 ・『こどもの歌名曲選』ドレミ楽譜出版社 ・『幼児さんびか』キリスト教保育連盟	
*全員が上記教本でレッスンをスタートするが、並行して用いる教材あるいは上記教本終了後の発展等については担当教員の指示に従う。音楽表現Ⅰ A の発表課題も指導を受ける。 *前期試験を行う。これは前期の成果を大勢の前で一人ずつ発表する形式である。課題曲・日程等については 5 月末頃に発表する。 *夏期休暇中の課題として弾き歌い 5 曲を全員に課す。この 5 曲は 11 月に試験を行い実習における実践へとつなげる。			*実習および就職試験など保育現場ですぐに使える実力を身につける。 *童謡伴奏は有名なものから始めて 1 曲でも多く数をこなす努力をする。 *11 月に弾き歌いの試験を行う。（音楽表現Ⅰ B と合同） *後期授業終了時に試験を行う。童謡伴奏・弾き歌いを中心に約 10 曲の課題曲を出す。課題曲は 11 月末頃に発表する。	
単位認定の方法及び基準 基本的に後期授業内試験（100％）の成績で単位認定を行うが、前期試験を受験しない学生には単位は認めない。前期後期とも、しっかり準備して試験を受けること。				
学生へのメッセージ 実技であるため、出席と授業での取り組みを重視する。ピアノ実技は講義科目と違って「各自が授業に向けて 1 週間準備（練習）してきたものを教員が指導する」という授業形態である。授業前日にあわせて練習するのではなく、たとえ短時間でも毎日練習すること。授業では各自のレベルにあわせて指導を行うため、担当教員の指示をしっかりと受けとめること。また、実習ではレベルに関係なく保育の中でピアノを弾かねばならないことを頭に置き、毎時間の課題に真剣に取り組む努力をすること。また、どの曲も楽譜を読み、確認しながら丁寧に練習すること。練習予定表（初回配付）を毎回持参すること。個人指導でも欠席すると全く進歩しないので欠席しないこと。 *出席確認時に遅れた学生は遅刻、10 分以上の遅刻は最終評価から減点する *ツメを短く切って授業に臨むこと *指導では様々な書き込みをするため、必ず自分の楽譜を持ってくる *あいさつをしっかりと「よろしくお願いします」「ありがとうございました」 *ピアノは実技科目であるため、試験不合格者への救済措置として、再テストの機会を設けている。再テストは負担が大きくなるため、受験せずにすむよう、日頃から精一杯の努力をすること。				
テキスト 『授業の進め方』の教本の箇所を参照。			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（ 無 ）				

科目名 造形表現Ⅰ A			担当教員 荒木みどり	
1 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 乳幼児期の造形表現活動を支援する上での知識・技能・表現力を身につけるための演習を行なう。 また、幼児の表現活動を通して得られる心の育ちや発達に合わせた造形活動を修得する。				
授業のねらい・概要 造形活動の基礎教材であるさまざまな画材、用具、素材に関わりながら、その特徴や使用方法を体験し修得する。さらに、造形活動を通してさまざまな子どもの表現を感受できる感性を養う。				
授業の内容・進め方 第 1 回：視聴覚教材を用いた造形表現の概要 第 2 回：素材と遊ぶ 新聞紙・紙コップ 第 3 回：描画の発達過程 第 4 回：描画材の理解Ⅰ クレヨン・クレパスの特徴と技法について 第 5 回：色と形と音で遊ぶ 第 6 回：グループ活動Ⅰ フィンガーペインティング 第 7 回：グループ活動Ⅱ 行事を取り入れた活動 第 8 回：描画材の理解Ⅱ ポスターカラーの特徴と道具について 第 9 回：描画材の理解Ⅲ 水彩ペン・水彩絵の具の特徴と技法 第 10 回：季節を取り入れた活動 第 11 回：描画を楽しむ環境づくり 第 12 回：子どもの造形表現の環境づくりについて 第 13 回：粘土の理解Ⅰ 紙粘土 第 14 回：粘土の理解Ⅱ 土粘土 第 15 回：グループ活動Ⅲ 粘土遊び				
単位認定の方法及び基準 造形活動や製作への積極性（20%）、造形ブック作成（40%）、授業内テストおよびレポート（40%）を基準にした総合的評価とする。				
学生へのメッセージ 造形教材に慣れ親しむことから始まるので、意欲的に活動に向き合うことが望ましい。				
テキスト 『〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現』 教育情報出版 尚、指定スケッチブック、材料費として 500 円程度徴収する場合があります。			参考図書 『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育園・幼稚園での造形教室やワークショップの実践、幼児遊具の開発、教科書執筆等の経験を有する教員が、乳幼児の造形表現活動を支えるための基礎的知識・技能・表現力を育むための講義、実践演習を行う。				

科目名 造形表現ⅠB			担当教員 荒木みどり	
1 年次	後期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 乳幼児期の造形表現活動を支援する上での知識・技能・表現力を身につけるための演習・指導を行なう。 また、幼児の表現活動を通して得られる心の育ちや発達に合わせた造形活動を修得する。				
授業のねらい・概要 造形活動の基礎教材であるさまざまな画材、用具、素材に関わりながら、その特徴や使用方法を体験し修得する。さらに、造形活動を通してさまざまな子どもの表現を感受できる感性を養う。				
授業の内容・進め方 第 1 回：視聴覚教材を用いて紙素材と道具の理解 第 2 回：紙素材を利用した造形Ⅰ 段ボール 第 3 回：紙素材を利用した造形Ⅱ 立体物をつくる 第 4 回：発達過程に合わせたハサミとりのりの活動 第 5 回：ハサミを使った紙の技法 第 6 回：身近な素材と遊ぶ 1 仮装の造形 第 7 回：身近な素材と遊ぶ 2 仮装ごっこ 第 8 回：季節を取り入れた活動Ⅰ 自然物の版画 第 9 回：季節を取り入れた活動Ⅱ 日用品の版画 第 10 回：動くおもちゃをつくる 第 11 回：物語る遊びについて 第 12 回：ごっこ遊びの活動Ⅰ グループミーティング 第 13 回：ごっこ遊びの活動Ⅱ ごっこに使うモノをつくる 第 14 回：ごっこ遊びの活動Ⅲ ごっこ遊びの体験 第 15 回：まとめ 子どもの造形表現の環境づくりについて				
単位認定の方法及び基準 造形活動や製作への積極性（20%）、造形ブック作成（40%）、授業内テストおよびレポート（40%）を基準にした総合的評価とする。				
学生へのメッセージ 製作を通して素材や道具の特徴を理解し、自由な造形活動のおもしろさを感じてください。				
テキスト 『〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現』 教育情報出版 尚、指定スケッチブック、材料費として 500 円程度徴収する場合があります。			参考図書 『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
実務経験のある教員の担当する科目該当（有） 保育園・幼稚園での造形教室やワークショップの実践、幼児遊具の開発、教科書執筆等の経験を有する教員が、乳幼児の造形表現活動を支えるための基礎的知識・技能・表現力・環境づくりを育むための講義、実践演習を行う。				

科目名 乳児保育Ⅰ			担当教員 平原藍	
1 年次	前期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標				
1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。				
授業のねらい・概要				
・現代社会における子育て環境の現状と課題を知り、そのうえでの乳児保育の意義・目的と役割について理解する。 ・3歳未満児の発達と成長、特性をふまえた保育について理解する。				
授業の内容・進め方				
1. 乳児保育の意義、目的、歴史の変遷など 2. 乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 3. 保育所における乳児保育と課題 4. 保育所以外の児童福祉施設における乳児保育 5. 家庭的保育・小規模保育等における乳児保育 6. 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 7. 3歳未満児の生活と環境 8. 3歳未満児の遊びと環境 9. 3歳未満児の成長・発達をふまえた保育者による援助や関わり 10. 3歳未満児の成長・発達をふまえた保育における配慮 11. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 12. 乳児保育の計画・記録・評価 13. 保育者間の連携・協働 14. 保護者との連携・協働 15. 自治体や地域の関係機関等との連携・協働				
単位認定の方法及び基準				
課題提出 40％ 定期試験 60％				
学生へのメッセージ				
筆記試験を行います。毎回の講義をしっかりと聞き、必要に応じてメモを執りましょう。				
テキスト			参考図書	
乳児保育Ⅰ・Ⅱ 〔新〕基本保育シリーズ⑮ 児童育成協会監修 中央法規出版			保育所保育指針 必要に応じて資料配布する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 有 ）				
保育の現場経験のある教員がその経験を活かし、保育者を目指す学生に必要な内容について授業を行う。				

科目名 乳児保育Ⅱ			担当教員 平原藍	
1 年次	後期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 1. 3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記 1～3 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。				
授業のねらい・概要 ・乳児の成長・発達のプロセスと特性をふまえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ・乳児の生活や遊び、保育の方法と環境について理解する。				
授業の内容・進め方 1. 乳児保育の基本 2. 子どもの生活の流れ（0 歳児クラス） 3. 子どもの保育環境（0 歳児クラス） 4. 子どもの援助の実際（0 歳児クラス） 5. 子どもの生活の流れ（1 歳児クラス） 6. 子どもの保育環境（1 歳児クラス） 7. 子どもの援助の実際（1 歳児クラス） 8. 子どもの生活の流れ（2 歳児クラス） 9. 子どもの保育環境（2 歳児クラス） 10. 子どもの援助の実際（2 歳児クラス） 11. 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 12. 集団での生活における配慮 13. 環境の変化や移行に対する配慮 14. 指導計画 15. まとめ（グループ発表）				
単位認定の方法及び基準 課題提出 80％ グループ発表 20％				
学生へのメッセージ 子どもたちからだけではなく、同僚や保護者からも信頼される素敵な保育者を目指しましょう				
テキスト 乳児保育Ⅰ・Ⅱ 〔新〕基本保育シリーズ⑮ 児童育成協会監修 中央法規出版			参考図書 保育所保育指針解説 必要に応じて資料配布する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育の現場経験のある教員がその経験を活かし、保育者を目指す学生に必要な内容について授業を行う。				

科目名 子どもの健康と安全			担当教員 小林久美子	
1 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策・感染症対策について具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。				
授業のねらい・概要 学んだ知識と技術が保育の場においてどのように展開されるかという観点を持ち、保育の場における演習・実技を多く取り入れ、より実践的な力の習得を目指す。				
授業の内容・進め方 【保健的観点を踏まえた保育環境と援助】 1. 子どもの健康と保育の環境／子どもの保健に関する個人対応と集団対応 子どもの養護の仕方（抱っこ・おんぶの仕方の実際） 【保育における健康と安全の管理】 2. 衛生管理（手洗い・マスクの着用・うがい・咳エチケットの実際） 3. 事故防止と安全管理（誤嚥防止ルーラー作成・保育環境） 4. 危機管理・災害への備え（避難訓練） 【子どもの体調不良などへの対応】 5. 体調不良や傷害が発生した場合の対応（1）（体調不良などへの対応・子どもと薬） 6. 体調不良や傷害が発生した場合の対応（2）（バイタルサイン測定の実際） 7. 応急手当（RICE・止血法・三角巾の取り扱いの実際） 8. 一次救命処置（心肺蘇生法・気道異物除去の実際） 【子どものかかりやすい感染症対策】 9. 集団発生の予防（嘔吐物の処置技術の実際） 【保育における保健的対応】 10. 子どもの生活に対する援助（1）（3歳未満児：身体計測・おむつ替えの実施計画） 11. 子どもの生活に対する援助（2）（3歳未満児：着替え・沐浴実施計画） 12. 子どもの生活に対する援助（3）（3歳未満児：身体測定・おむつ替え・着替え・沐浴の実際） 13. 子どもの生活に対する援助（4）（菌みがき・染めだしチェック） 14. 個別的な配慮が必要な子どもへの対応（エビペンの取り扱い方の実際） 障害ある子どもへの対応（車いす介助の実際） 【健康および安全の管理の実施体制】 15. 子どもの健康と安全における連携と協働／まとめ 期末試験				
単位認定の方法及び基準 期末試験と授業への取り組みを総合して評価する。評価の比率は、期末試験（50％）、課題・その他提出物（30％）、演習態度（20％）とする。				
学生へのメッセージ 演習を通じて保健的な技術を実際に身につけていく。演習を行う際にたとえ相手が人形であっても、実際の乳幼児に接するときを想定し真剣に行なって欲しい。				
テキスト これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健と安全 改訂二版 創成社			参考図書 ・保育所保育指針 ・赤十字幼児安全法講習 ・赤十字幼児安全法 乳幼児の一次救命処置	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 医療現場・保健センターで、乳幼児看護・健康診断等業務経験のある教員がその経験を活かし授業を行う。				

科目名 保育活動実践演習Ⅰ			担当教員 吉澤猛 他	
1 年次	通年	2 単位	選択	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育の知識及び技能の基礎を横断的に学び、保育者に必要な全人的な教育を土台とした実践力を養う。				
授業のねらい・概要 保育者として、必要な保育の知識及び技能を多領域から体験的に学ぶ。 保育者としての幅広い視点を持ち専門性を学ぶ。				
授業の内容・進め方 1. オリエンテーション / 保育者の心得 2. 保育者になるとは①(スタートアップ特別授業) 3. 保育者になるとは②(スタートアップ特別授業) 4. 保育者になるとは③(スタートアップ特別授業) 5. 保育者になるとは④(スタートアップ特別授業) 6. 対人援助職の心得① (アッセンブリーアワー) 7. 対人援助職の心得② (アッセンブリーアワー) 8. 保育活動運動会① (スポーツ大会) 9. 保育活動運動会② 10. 保育活動運動会③ 11. 保育活動運動会④ 12. 対話の中で学ぶ① (HR 活動) 13. 対話の中で学ぶ② (HR 活動) 14. 対話の中で学ぶ③ (HR 活動) 15. 総合振り返り 16. 園の保育の実際① (行事への参加) 17. 園の保育の実際② (行事への参加) 18. 園の保育の実際③ (行事への参加) 19. 対人援助職の心得③ (アッセンブリーアワー) 20. 対人援助職の心得④ (アッセンブリーアワー) 21. 保育者から学ぶ① (実習講演) 22. 保育者から学ぶ② (保育実習講演) 23. 保育者から学ぶ③ (保育実習講演) 24. 保育活動① (わらし祭) 25. 保育活動② (わらし祭) 26. 保育活動③ (わらし祭) 27. 保育活動④ (わらし祭) 28. 保育活動⑤ (わらし祭) 29. 保育活動⑥ (わらし祭) 30. まとめの振り返り				
単位認定の方法及び基準 授業毎の振り返り (60%) 授業における課題 (40%) とし、総合的に評価する。				
学生へのメッセージ ・学校での学びは、授業以外の行事やアッセンブリーから構成される。これらの機会を捉え、参加することを通して、多面的で広い視野をもつ保育者としての素養が培われると考えられる。積極的に体験することで、行事の意味や意義について理解を深めてほしい。 ・年間を通じて、園行事のお手伝い (運動会、お泊り保育、お芋ほり等) があるので、学生は行事等保育活動を選んで参加することを推奨する。 ・アッセンブリー (目的別) は他分野のゲストスピーカーの話を積極的に聞き学びが深められることを期待する。				
テキスト ・適宜資料配布		参考図書 『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『保育所保育指針』(平成29年3月告示 厚生労働省) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (無)				

2 学年

科目名 体育実技			担当教員 松岡綾葉	
2 年次	前期	1 単位	必修	実技
授業のテーマ及び到達目標 生涯スポーツの実践を見据え、様々な体育・スポーツの実践を通じ健康の維持、増進を図る。				
授業のねらい・概要 生涯にわたり身体を動かすことを楽しみ、生活の一部として運動やスポーツ習慣を確立するためには学生生活のなかで様々な運動・スポーツ体験が必要である。そこで本授業では、多様な種目を行い、楽しみながら各種目のルールや特性を理解する。加えて、安全面に配慮をしながら、学生が中心となり運営を行うこともねらいとする。				
授業の内容・進め方 1. ガイダンス・アイスブレイク 2. 用具を使用した運動（縄跳び、ボール、フラフープなど） 3. ドッジビー、フライングディスク 4. ピラティス、ボールエクササイズ 5. ヨガ、マインドスポーツ 6. キャッチバレーボール、ハンドサッカー 7. グラウンド・ゴルフ 8. パラスポーツ（ボッチャ） 9. パラスポーツ（ゴールボール） 10. スポーツウエルネス吹矢、ダーツ 11～12. バッドレスパースボール、ソフトボール 13. 表現・リズム体操 14. エアロビクスダンス 15. 様々なダンス				
単位認定の方法及び基準 評価は実技の小テストおよび授業への積極性をもとに総合的に評価する。実技の小テストを 2/3 とし、授業への積極性を 1/3 とする。				
学生へのメッセージ 授業は動ける服装にて受講すること。また、グループ活動が非常に多い科目なので、クラスメートとコミュニケーションをしっかりと取り活動を円滑にすすめるよう心がけること。				
テキスト なし		参考図書 『子どもが喜ぶ！体育授業レシピー運動の面白さにドキドキ・ワクワクする授業づくりー』 教育出版		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育園でボールあそびや平均台、マット等の幼児体育実技指導に携わった経験を持つ教員が多様な体育・スポーツの種目を提案し、各種目のルールや特性について実技を通して指導する。				

科目名 子ども家庭支援論			担当教員 山梨有子	
2 年次	前期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 保育者が行う子ども家庭支援の意義と役割を理解する。 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭 支援の現状、課題について理解する。				
授業のねらい・概要 保育士は、「児童の保育」と「保護者に対する支援」をあわせて行う専門職として位置づけられている。ここでは、保育士の家庭への支援が必要とされるに至った社会的要因と現代の家族・家庭の変容について理解を深める。また、必要とされる多様な支援、および関連機関との連携をとおして家族・家庭・地域を視野にいれた支援体制の重要性を理解し、柔軟に対応できる視点を養うことをねらいとする。				
授業の内容・進め方 1. 子ども家庭支援の意義と必要性 2. 子ども家庭支援の目的と機能 3. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 4. 子どもの育ちの喜びの共有 5. 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に 資する支援 6. 保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定 の尊重・秘密保持等） 7. 家庭の状況に応じた支援 8. 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 9. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 10. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 11. 子ども家庭支援の内容と対象 12. 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 13. 地域の子育て家庭への支援 14. 要保護児童等及びその家庭に対する支 15. 子ども家庭支援に関する現状と課題 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、授業における課題（30%）とし、総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 保育の現場において多様なニーズをもつ親子との出会いがある。その時に、柔軟で最善の支援が可能になるよう、積極的に授業に取り組んでもらいたい。				
テキスト なし		参考図書 『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 最新 保育士養成講座『子ども家庭支援 - 家庭支援と子育て支援』（2019）社）全国社会福祉協議会		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 有 ） 保育実践経験のある教員がその経験を活かし、保育者が行う子育て支援についての授業を行う。				

科目名 保育者論（学校安全への対応を含む）			担当教員 梨子千代美	
2 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 子どもの育ちを支える保育者のあり方について考え、理解することが大きなテーマである。具体的には、子どもを取り巻く環境をふまえ、人間形成の根幹にかかわる保育者の役割・資質能力・職務内容等について理解し、保育職への意欲を高めるとともに、家庭との緊密な連携及び保育施設内外の専門家等との連携・協働の必要性についても理解する。また、保育専門職としての倫理観を身につけ、保育の質の向上のための取り組みやキャリア形成の必要性について理解し、保育者として自己成長していく素地を養う。				
授業のねらい・概要 幼稚園実習及び保育所実習では、実際に働く保育者の姿から得た学びは多い。授業では実習の学びをふまえ、保育者（幼稚園教諭、保育教諭、保育士）に関わる関係法令から、保育者の役割、職務内容、制度的位置づけ、責務について理解し、基本的知識を身につける。また、保育者の専門性について考察し、理解する。さらに、保育者同士が、チームとして組織的に協働したり、家庭や地域社会、専門機関や関係機関などと連携・協働しながら諸課題に対応することの必要性を理解する。研修をはじめとする保育者の資質向上への取り組みの必要性とその内実、職務遂行のために生涯にわたって学び続けることの必要性について理解する。				
授業の内容・進め方 第1回：保育者の役割・職務内容 第2回：保育者の倫理 第3回：保育者の制度的位置付け（児童福祉法等における保育者の定義） 第4回：保育者の資格・要件 第5回：保育者の責務（欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等） 第6回：保育者の資質能力 第7回：養護及び教育の一体的展開 第8回：家庭との連携と保護者に対する支援 第9回：計画に基づく実践と省察・評価 第10回：保育の質の向上 第11回：保育における職員間の連携・協働 第12回：専門職間及び専門機関、並びに地域自治体や関係機関との連携・協働 第13回：資質向上に関する組織的取組 第14回：保育者の専門性の向上とキャリア形成 第15回：組織とリーダーシップ、危機管理を含む学校安全への対応 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、授業中のレポート（30%）				
学生へのメッセージ この授業では、講義だけでなく、調べ学習やグループ学習を取り入れながら授業を進める。また、授業中に取り組んだ課題は提出予定である。提出期限を厳守するようお願いしたい。積極的な姿勢で授業に参加されることを強く望む。				
テキスト ①『シードブック 三訂 保育者論』（榎田二三子・大沼良子・増田時枝編著、建帛社） ②『最新保育小六法・資料集 2025』（大豆生田啓友・三谷大紀編、ミネルヴァ書房）			参考図書 適宜プリントを配布する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 子どもや保育を取り巻く環境の変化が激しい時代においては、保育者の資質・専門性の絶え間ない向上が求められ、研修をはじめとする学びの機会や場が保障されているものの、それだけでは十分とは言えない。保育者の資質・専門性の絶え間ない向上のためには、生涯にわたって主体的に学び続けること、いわゆる生涯学習が必要である。こうした視点から生涯学習振興行政での勤務経験を活かし、子どもの育ちを支える保育者のあり方についての授業を行う。				

科目名 保育原理Ⅱ			担当教員 山梨有子	
2 年次	前期	2 単位	選択	講義
授業のテーマ及び到達目標 保育の重要性と保育のあり方について学ぶ。 多様な視点から保育のあり方を考える。				
授業のねらい・概要 保育の基本的な考え方を理解した上で、保育における今日の課題や動向を知る。保育者に必要な知識をより幅広く身につけ、今後保育者になったときに求められる専門性や資質を形成していく基礎を培っていくことをねらいとする。				
授業の内容・進め方 1. 保育とはなにかを考える 2. 子どもの最善の利益とは① 3. 子どもの最善の利益とは② 4. 保育者論①保育者の位置づけ 5. 保育者論②生活文化を伝える 6. 子ども理解① 3 歳未満児の園生活 7. 子ども理解② 3 歳児の園生活 8. 子ども理解③ 4 歳児の園生活 9. 子ども理解④ 5 歳児の園生活 10. 多様な保育ニーズ①近年の動向 ②子育て支援 11. 乳児院・児童養護施設における保育者の役割 12. 障害児・者施設における保育者の役割 13. 子どもを通じた家族支援について 14. 世界の保育 15. 今後の保育課題を検討する				
単位認定の方法及び基準 期末レポート（50%）、授業における課題（50%）とし総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 次世代を育成していく保育者になるために必要なことを知り探求していく姿勢が望まれます。日頃から保育の制度や多様化する保育ニーズ、社会問題など幅広く関心を持つことを心がけ授業に臨んでください。				
テキスト 特になし			参考図書 適宜紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育実践経験がある教員が、保育を多面的に捉える授業を行う。				

科目名 子ども家庭支援の心理学			担当教員 中 智美	
2 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、子どもとその家庭を捉える視点、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。				
授業のねらい 生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し、乳幼児期の発達課題や様々な発達の道すじをふまえた保育士の関わりについて考える。また、家族・家庭の役割、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解する。さらに、子育てを取り巻く環境や子育て家庭の抱える課題について学び、保護者を理解し日常的・継続的に支えていく保育士の役割を考える。				
授業の内容・進め方 1. オリエンテーション 授業のねらいと進め方 2. 乳児期の発達 3. 幼児期の発達 4. 学童期の発達 5. 青年期の発達 6. 成人期・中年期の発達 7. 高齢期の発達 8. 家族・家庭の意義と機能 9. 家族関係・親子関係の理解 10. 子育ての経験と親としての育ち 子育てを取り巻く社会的状況 11. ライフコースと仕事・子育て 12. 多様な家庭とその理解 13. 子どもの生活・生育環境とその影響 14. 子どものこころの健康にかかわる問題 15. まとめ				
単位認定の方法及び基準 ・期末試験（40％）、レポート・小テスト（30％）、授業態度（30％）を総合して評価する。				
学生へのメッセージ 子どもや子育て家庭が抱える問題は深刻化しており、日常的に寄り添いながら支援できる保育士に大きな期待が寄せられています。保育士になるために自身が身につけるべき知識、価値、態度を常に考えながら、しっかりと出席し、授業に取り組むことを望みます。				
テキスト 青木紀久代編集「シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学」みらい、2019 年			参考図書 参考文献等は、その都度紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 無 ）				

科目名 子どもの理解と援助			担当教員 山梨有子	
2 年次	後期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 園における子どもの生活や遊びの実態に即して、子どもの発達や学びを理解する。また、その過程で生ずるつまずきとその要因を把握するための原理及び対応の方法を考えることができる。				
授業のねらい・概要 子どもの生活に即した発達や学びに関する理論を概観し、子ども理解のための視点や具体的方法を知る。また保護者の心情などの理解について考えを深めることができる授業を行う。				
授業計画 第 1 回：子どもの実態に応じた発達や学びの把握 第 2 回：子ども理解に基づく養護及び教育の一体的展開 第 3 回：子どもへの共感的理解と関わりの姿勢 第 4 回：子どもの生活や遊び 第 5 回：保育者と子ども、子ども同士の関わり 第 6 回：集団経験の中での個人の育ち 第 7 回：子どもの葛藤やつまずきに対する理解 第 8 回：保育の環境の理解と構成 第 9 回：保育の環境の変化と移行 第 10 回：子ども理解の方法～観察 第 11 回：子ども理解の方法～記録 第 12 回：子ども理解の方法～評価 第 13 回：子ども理解の方法～職員間での情報共有 第 14 回：保護者理解と情報共有、連携 第 15 回：子ども理解に基づく発達援助 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、授業における課題（30%）とし、総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 実習などで印象が残った子どもの様子や事例を基に、子ども理解を深めていきます。グループワーク等を通して学びを深めていきます。積極的に対話に参加することが望まれます。				
テキスト 『幼児理解に基づいた評価 平成 31 年 3 月』（文部科学省 著作権所有、チャイルド本社）			参考図書 適宜授業の中で紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育実践の経験がある教員がその経験を活かし、多角的視点を用いながら事例について解説をし、保育現場における子どもの内面を理解するための授業を行う。				

科目名 子どもの食と栄養Ⅰ			担当教員 岡田恵子	
2 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 子どもの健康と食生活を理解し、栄養の基礎的知識と小児栄養の実際を学ぶことができる。				
授業のねらい・概要 子どもの栄養の特徴と食生活の意義を理解し、保育者として食事と心の健康をふまえ、食生活と生活全般、食育の望ましい形を理解し実践できるようにする。				
授業の内容・進め方 1. 子どもの健康と食生活の概要 2. 栄養の基礎知識 3. 乳児期栄養（乳児期栄養の特徴） 4. 離乳期栄養（乳児期栄養の問題と健康への対応） 5. 幼児期栄養（幼児期の心身の特徴と食生活） 6. 幼児期栄養（幼児期の食生活の特徴とその実践） 7. 幼児期栄養（間食の意義とその実践） 8. 幼児期栄養（集団生活と献立作成・調理） 9. 学齢期・思春期の食生活 10. 摂食障害と食生活のあり方 11. 小児期の疾病の特徴と食生活 12. 障害児の食生活と実際 13. 児童福祉施設の食生活と給食 14. 学齢期食育と栄養教育について 15. 保育士・幼稚園教諭と「食と栄養」とのかかわり				
単位認定の方法及び基準 授業態度 20%、およびレポート 30%と定期試験成績 50%により総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 栄養学は教科書等で学ぶことが多いが、健康を考えることは必須である。保育者・教育者になるために、子どもの栄養について学んで欲しい。				
テキスト ① 「三訂セミナー子どもの食と栄養」建帛社 その他適宜資料を配布する			参考図書 「八訂食品成分表 2025」女子栄養大出版部	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 管理栄養士として勤務した経験がある教員が、その経験を活かし、子どもの食と栄養について実践的な事例の紹介をしながら授業を行う。				

科目名 子どもの食と栄養Ⅱ			担当教員 岡田恵子	
2 年次	後期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 子どもの各発達期と栄養の実際を理解する。				
授業のねらい・概要 子どもの発達に伴う栄養の特徴を理解し、食生活の現状と課題について学び、保育者として食育と栄養教育に対応できる力を身につけることができる。				
授業の内容・進め方 1. 乳児期栄養（乳汁栄養・離乳期の栄養） 2. 離乳期栄養（離乳期栄養の実際と問題） 3. 離乳期栄養（献立作成と調理の基本） 4. 幼児期栄養（幼児期の発達と健康への対応） 5. 幼児期栄養（幼児期の食生活の問題） 6. 幼児期栄養（幼児期の食生活の特徴と実践） 7. 幼児期栄養（集団生活と献立作成・調理） 8. 幼児期栄養（間食と弁当） 9. 学齢期・思春期の食生活 10. 摂食障害など特別な配慮を必要とする事例 11. 小児期の疾病の特徴と食生活 12. 障害児と施設における食事と実際 13. 教育現場における食育と栄養教育について 14. 食育活動と実際 15. 保育士・幼稚園教諭と「子どもの食と栄養」				
単位認定の方法及び基準 授業態度 20%、およびレポート 30%と定期試験成績 50%により総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 食事と健康について学んで欲しい。多くの情報から選択する力を身につけて欲しい。				
テキスト ①「三訂セミナー子どもの食と栄養」建帛社 その他適宜資料を配布する			参考図書 「八訂食品成分表 2025」女子栄養大出版部	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 管理栄養士として勤務した経験がある教員が、その経験を活かし、子どもの食と栄養について実践的な事例の紹介をしながら授業を行う。				

科目名 臨床心理学			担当教員 松宮美樹	
2 年次	通年	2 単位	選択	演習
授業のテーマ及び到達目標 さまざまな心の問題について理解し、その解決方法を探って支えることの実践を学ぶ。				
授業のねらい・概要 さまざまな心の問題を抱える状態とはどのようなことで、どのような方法で評価するのか、どのような現場があるのか、また、どのような支援をしていくのかを学ぶ。各自が卒業後にその現場で活用できるような学びを目指す。				
授業の内容・進め方 ＜臨床心理学を学ぶ＞ Ⅰ 臨床心理学とは 1. 臨床心理学の定義 Ⅱ 臨床心理学の歩み 2. 臨床心理学の歴史 Ⅲ 臨床心理学の領域と方法 3. 臨床心理学の領域 4. 5. 臨床心理学の方法 Ⅳ 心の問題と心理臨床 6. 心の問題のとらえ方 7. 病因論に基づく分類 Ⅴ ライフサイクルと臨床心理学 8. 人間とライフサイクル 9. 大人のライフサイクルと心理的支援 Ⅵ ポジティブ心理学と臨床心理学 10. ポジティブ心理学の動向 11. 「生きること」への支援と臨床心理学				
＜子どものための臨床心理学＞ Ⅰ 乳幼児の発達と心理臨床 12. 13. 生活習慣の形成にかかわる問題 14. 15. 身体的・知的な発達における問題 16. 17. 社会的・人格的な発達における問題 18. 19. 知的障害・発達障害 Ⅱ 児童の発達と心理臨床 20. 21 身体的・知的な発達における問題 22. 23. 社会的・人格的な発達における問題 24. 25. 知的障害・発達障害 Ⅲ 学校生活と心理臨床 26. 学校生活での心理臨床 Ⅳ 心の理解と支援のための心理臨床 27. 28. 子どもの心の理解のための心理技法 29. 30. 子どもの支援のための心理技法				
単位認定の方法及び基準 単位認定の方法及び基準：授業中の取り組みと課題提出、期末試験への取り組みを総合的に評価する。比率は前者が 60%、後者が 40% 程度とする。				
学生へのメッセージ 1 年次で学んだ心理学全般が土台となるため復習を勧める。				
テキスト 「ピアヘルパー」ハンドブック 新版 日本教育カウンセラー協会編 「ピアヘルパー」ワークブック 日本教育カウンセラー協会編 資料は適宜配布			参考図書 「子どもと大人のための臨床心理学」 北大路書房	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 有 ） 公認心理師、スクールカウンセラーとしての経験がある教員の指導の下、様々な心の問題についてその解決方法に関する講義と演習を指導する。				

科目名 健康指導法			担当教員 眞鍋隆祐	
2 年次	通年	2 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 「健康」の領域のねらいと内容を理解した上で保育者としての指導力を養う。				
授業のねらい・概要 子どもの健康教育に携わるための正しい知識を理解し、健康をめぐる諸問題を考察する。				
授業の内容・進め方 第1 回：子どもの健康と生活環境 第2 回：生きる力と子どもの健康 第3 回：子どもの心とからだの諸問題から保育内容を考える（模擬保育の実践） 第4 回：子どものからだ全国調査と幼児期の肥満から保育内容を考える（模擬保育の実践） 第5 回：生活習慣の形成、内容、援助の留意点 第6 回：子どもの心の健康と保育者の態度 第7 回：保育とカウンセリング 第8 回：領域「健康」の歴史的変遷 第9 回：領域「健康」のねらいと内容 第10回：幼稚園教育要領 第11回：保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第12回：子どもの発育、発達の姿 第13回：形態の発育と機能の発達 第14回：姿勢と移動能力の発達、運動能力と動きの獲得（映像資料等からの読み取り） 第15回：運動機能の発達と運動意欲を高めるための情報機器等を活用した指導 第16回：安全教育と安全管理 第17回：事故傾向児の特徴 第18回：安全教育のねらい、事故の原因（潜在危険） 第19回：潜在危険と園内事故の全国調査結果から保育内容を考える（模擬保育の実践） 第20回：子どもと交通事故（交通事故のメカニズム） 第21回：幼児教育・保育施設における情報機器等を活用した健康管理 第22回：子どもの健康観察と健康診断 第23回：子どもの病気、かかりやすい病気の予防と特徴 第24回：感染症対策と乳幼児突然死症候群（SIDS） 第25回：災害時の指導と危機管理、地域との連携 第26回：子どもの歯の健康 第27回：食育の環境とアレルギーへの対応 第28回：健康な心とからだを育てるための指導案作り（グループ活動） 第29回：情報機器等を活用した保健だよりの作成（グループ活動） 第30回：保育者と救命救急法、応急処置 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、課題提出（30%）				
学生へのメッセージ 幼児期は生涯にわたって健康的な生活を送る基となる習慣を身に付ける重要な時期です。実際に保育の現場において指導する場面を想定しながら授業に臨んでいただきたい。前期および後期に学習のまとめとして筆記試験を行う予定です。				
テキスト 『新しい保育講座7 保育内容「健康」』 ミネルヴァ書房		参考図書 『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育園の新設に携わった経験を持つ教員が、現代の子どもたちを取り巻く社会的環境、生活環境の現状を伝えるとともに、保育者として子どもの健康教育に携わるにあたって必要とされる視点や知識、技術を指導する。				

科目名 人間関係指導法			担当教員 向井優芽	
2 年次	後期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 「人間関係」の領域のねらいと内容を理解する。また、他の人たちとの関わりを通じて自己が形成され、自立心が養われることを理解する。				
授業のねらい・概要 子どもの発達過程にそった人との関わり、保育の際の配慮について理解を深める。				
授業の内容・進め方 第1回：領域「人間関係」の誕生した歴史的背景 第2回：領域「人間関係」の意義とねらい 第3回：遊び場と遊びからみる人間関係の変化 第4回：人との関わりが育つ道筋～愛着 第5回：人との関わりが育つ道筋～0歳児 第6回：人との関わりが育つ道筋～1歳児 第7回：人との関わりが育つ道筋～2歳児以上 第8回：こころを語る力を育てる保育の事例（資料からの読み取りと模擬保育の実践） 第9回：関係づくりの力を育てる～「失敗」の事例（資料からの読み取りと模擬保育の実践） 第10回：関係づくりの力を育てる～「けんか」の事例（資料からの読み取りと模擬保育の実践） 第11回：関係づくりの力を育てる～「仲間はずれ」の事例（資料からの読み取りと模擬保育の実践） 第12回：情報機器の活用を含めた友だちと楽しく仲良く遊ぶための指導 第13回：情報機器や連絡帳を活用した保護者からの相談 第14回：情報機器の活用を含めた同僚や地域の子育て家庭の人々との関わり 第15回：保育者と保護者が育ちあう場へ 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験と授業への取り組みを総合して評価する。評価の比率は定期試験（80%）、レスポンスシートの提出（20%）程度とする。				
学生へのメッセージ 本授業ではグループに分かれての討議を行う。実習で培った知識や各自の保育観など、活発な意見交換を行うことを期待する。				
テキスト 授業時に印刷物を配布する。		参考図書 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（無）				

科目名 言葉指導法			担当教員 藤澤麻里	
2 年次	通年	2 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育におけるより良い言葉環境について考える力を養うとともに指導力を高める。				
授業のねらい・概要 言葉の発達や表現能力の向上、相手との言葉を通じたコミュニケーション力の獲得、また児童文化財とのふれあいや活用法などについて理解を深める。				
授業の内容・進め方				
第 1 回：言葉とは何か		第 16 回：子どもの言葉と自己省察		
第 2 回：私たちの生活の中の言葉や文字		第 17 回：共感と言葉		
第 3 回：乳幼児のコミュニケーション能力		第 18 回：「聞く」ことと「話す」こと～傾聴		
第 4 回：乳児期の発達と言葉～乳児期前期		第 19 回：言葉としての身体表現～言葉にならない言葉の理解		
第 5 回：乳児期の発達と言葉～乳児期後期		第 20 回：言葉としての身体表現～身体表現の言語化		
第 6 回：幼児期の発達と言葉～幼児期前期		第 21 回：言葉としての身体表現～言語表現と身体表現の協和		
第 7 回：幼児期の発達と言葉～幼児期後期		第 22 回：寄り添うことから生まれる言葉		
第 8 回：環境構成と言葉の発達		第 23 回：保護者対応と言葉～言葉を用いたコミュニケーション		
第 9 回：言葉を育てる保育者の役割～周りにいる人の言葉に関心を持つ（情報機器等を活用した模擬保育の実践）		第 24 回：保護者対応と言葉～言葉から真意を汲み取る、伝える		
第 10 回：言葉を育てる保育者の役割～相手の話を聞く（情報機器等を活用した模擬保育の実践）		第 25 回：現代社会と言葉をめぐる諸問題		
第 11 回：言葉を育てる保育者の役割～自分の考えを言葉にする（情報機器等を活用した模擬保育の実践）		第 26 回：文字に出会う～情報機器等を活用した模擬保育の実践		
第 12 回：児童文化財との出会いと言葉～様々な児童文化財と情報機器等を活用した模擬保育の実践		第 27 回：文字を使う～情報機器等を活用した模擬保育の実践		
第 13 回：児童文化財との出会いと言葉～言葉や想像の楽しさを感じるための情報機器等を活用した模擬保育の実践		第 28 回：指導計画と領域「言葉」		
第 14 回：情報機器等のメディアと言葉		第 29 回：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
第 15 回：言葉の発達をとらえる視点		第 30 回：言葉の持つ力 定期試験		
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、小テスト（20%）、課題提出（10%）程度の割合とする。				
学生へのメッセージ 子どもの発達の特徴や学びの過程を理解した上で、子どもの言葉体験がより豊かになる保育を具体的に想定し指導案作成を目指していく。それぞれ創意工夫をして課題に取り組んでほしい。				
テキスト 『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」』（馬見塚昭久、小倉直子編著、ミネルヴァ書房）		参考図書 『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育現場に勤務した経験を持つ教員が実例を多く取りいれ、子どもの言葉の発達課程、子どもの言葉を豊かに育むための援助の在り方についての授業を行う。				

科目名 表現指導法Ⅱ			担当教員 荒木みどり	
2 年次	通年	2 単位	選択	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育者としての表現活動の意義を理解し、活動の立案・実践を通して応用力を養う。				
授業のねらい・概要 表現指導法Ⅰで学んだことを踏まえ、幼児の心情、認識、思考や動き等を視野に入れた具体的な製作や表現活動の立案と演習。また視聴覚教材や情報機器の活用、付属幼稚園においての実践から更なることも理解を深める。				
授業の内容・進め方				
第 1 回：表現活動の意義と展開―視聴覚資料を用いたガイダンス		第 15 回：グループ教材研究 ― 研究レポート作成		
第 2 回：乳児のあそびと造形（五感を刺激するおもちゃ作り）― 理解と提案		第 16 回：乳幼児の教材研究（お弁当づくり）― 様々な素材を用いて立案		
第 3 回：乳児のあそびと造形（五感を刺激するおもちゃ作り）―立案・製作		第 17 回：乳幼児の教材研究（お弁当づくり）― 様々な素材を用いて製作		
第 4 回：乳児のあそびと造形（五感を刺激するおもちゃ作り）― グループ演習の計画		第 18 回：乳幼児の教材研究（お弁当づくり）― 作品鑑賞・ディスカッション		
第 5 回：演習① ― 子どもと素材で遊ぶ・表現活動を援助する		第 19 回：表現活動の環境づくり ― 場づくりについての保育者の工夫		
第 6 回：演習の振り返りと理解―情報機器を用いてディスカッション		第 20 回：表現活動の環境づくり ― 活動の援助演習		
第 7 回：幼児のあそびと造形（布素材シアター形式の製作）― 表現の理解と提案		第 21 回：演習③―子どもと画材で遊ぶ・表現活動を援助する		
第 8 回：幼児のあそびと造形（布素材シアター形式の製作）― 立案・製作		第 22 回：絵本から学ぶ ― 様々な手法を知る		
第 9 回：幼児のあそびと造形（布素材シアター形式の製作）― 製作		第 23 回：絵本製作（大型絵本作り・仕掛けのある制作物）― 物語・仕掛けを立案		
第 10 回：幼児のあそびと造形（布素材シアター形式の製作）― 作品鑑賞・ディスカッション		第 24 回：絵本製作（大型絵本作り・仕掛けのある制作物）― 頁構成を考える・試作		
第 11 回：演習② ― 付属幼稚園での実践演習		第 25 回：絵本製作（大型絵本作り・仕掛けのある制作物）― 製作（完成 30%）		
第 12 回：演習の振り返りと理解 ― 情報機器を用いてディスカッション		第 26 回：絵本製作（大型絵本作り・仕掛けのある制作物）― 製作（完成 70%）		
第 13 回：乳幼児の教材研究 ― グループ教材研究・提案・製作		第 27 回：絵本製作（大型絵本作り・仕掛けのある制作物）― 製作（完成 100%）		
第 14 回：乳幼児の教材研究 ― グループ教材研究・演習・振り返り		第 28 回：演習④ ― 付属幼稚園での実践演習		
		第 29 回：保育の中で表現の楽しさを引き出すために		
		第 30 回：まとめ／造形と援助のあり方・定期試験		
単位認定の方法及び基準 平常点〈主体性・積極性・協働性〉（50%）、製作物、レポート（50%）を基準にした総合的評価とする。				
学生へのメッセージ 造形教材を丁寧に作り上げてみましょう。そして子どもたちの前で実践してみましょう。きっと楽しい。				
テキスト なし		参考図書 『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育園・幼稚園での造形教室やワークショップの実践、幼児遊具の開発、教科書執筆等の経験を有する教員が、乳幼児の造形表現活動を支えるための基礎的知識・技能・表現力・環境づくり・援助を育むための講義、実践演習を行う。				

科目名 子どもと言葉			担当教員 藤澤麻里	
2 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 領域「言葉」の指導の基盤となる乳幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。				
授業のねらい・概要 子どもの言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。また、保育の場で子どもが触れている児童文化財の素材や種類について理解を深める。				
授業の内容・進め方 第1回：人間にとっての言葉の意義と機能 第2回：子どもの言葉の発達過程 第3回：言葉に対する感覚を豊かにする実践 第4回：子どもと楽しむ「言葉遊び」 第5回：子どもの生活における児童文化と児童文化財 第6回：子どもの育ちにおける児童文化と歴史 第7回：保育の中の児童文化（1）わらべうた、絵描き歌 第8回：保育の中の児童文化（2）絵本、昔話、物語 第9回：子どもの遊びと児童文化財（1）発達と言葉の理解 第10回：子どもの遊びと児童文化財（2）遊び場、環境構成 第11回：子どもの遊びと児童文化財（3）玩具、伝承遊び 第12回：児童文化財を用いた実践 第13回：園生活における言語表現と保育者の援助 第14回：子どもの遊びとメディアとの関係 第15回：保育における言語表現 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験・提出物、授業への取り組みを総合して評価する。 定期試験（60％）、授業の発表内容（20％）、課題レポート（20％）程度の割合とする。				
学生へのメッセージ 演習を通して、子どもの感性と言葉の育ちが豊かになる保育を展開する知識を深めてほしい。そのためには、まずは皆さん自身が様々な児童文化、文化財に触れ、感性を磨き、表現することを楽しみ、その上で、児童文化財等を保育の中に取り入れていく意義について考え実践してほしい。				
テキスト 『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」』（馬見塚昭久、小倉直子編著、ミネルヴァ書房） 『読み聞かせで発達支援 絵本でひらく心ことば』（本と子どもの発達を考える会 かもがわ出版）			参考図書 『ことばと表現力を育む児童文化』（萌文書林）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育現場に勤務した経験を持つ教員が、その経験を活かし、子どもの言葉に対する感覚を豊かにする保育について、また、児童文化財の素材や活用について授業を行う。				

科目名 音楽表現Ⅲ			担当教員 桐原明子・今石明子・佐々木純子・清水絵美・橋本美香・水上まり	
2 年次	前期	1 単位	選択	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育のための音楽表現 ーレパートリーを増やす				
授業のねらい・概要 音楽Ⅰ、音楽Ⅱを基礎として、子どもの成長、発達を踏まえた音楽表現を展開するための実践的なピアノ演奏および弾き歌いの技術を身に付けると同時に、実習・就職に向けて音楽表現における幅広いレパートリーを獲得する。90 分約 6 ～ 7 名の個人指導である。				
授業の内容・進め方 音楽Ⅱからの継続で、15 回の授業の中で童謡伴奏と自由曲を平行して学ぶ。実習課題を中心に保育の様々な場面で役立てることができる曲、さらには就職試験で用いることができる曲、ということを前提に、各指導教員と相談の上、選曲すること。 <u>練習予定表（初回配付）</u> を毎回持参すること。 1～ 2. 実習課題に取り組む（ピアノ・歌を含む） 3～ 4. 実習課題を仕上げる（ピアノ・歌を含む） 5～ 7. レパートリーを広げる（ピアノを含む） 8～10. レパートリーを広げる（童謡を含む） 11. 保育における音楽表現の応用① 12. 保育における音楽表現の応用② 13. 人の演奏を聴くこと 14～15. 人の前で発表すること * 前期授業内に、就職試験と同じ形式で試験を行う。指定の課題曲 1 曲のほか、自由曲、弾き歌い 2 曲の合計 4 曲を課す。 * 初級で特に余裕のない学生は、まず試験曲を早めに決め、完璧に仕上げる努力をすること。 * 就職試験では、その場で渡された楽譜を見てすぐ演奏しなければならない「初見」を課されることもある。この場合、曲は童謡伴奏であることが多いので、その対策という意味でも、童謡伴奏を 1 曲でも多くこなす努力をすること。また、これまでに仕上げた童謡も、すぐに弾けるよう、と時々復習しておくこと。（せっかく練習しても、忘れてしまっては使い物にならない。）				
単位認定の方法及び基準 基本的に授業内試験の成績（100％）で単位認定を行う。レベルにあわせて選曲し、十分に準備して臨むこと。				
学生へのメッセージ 音楽Ⅱと同様、実技であるため出席と授業での取り組みを重視する。夏から始まる就職試験では、音楽表現の実技試験が行われることもある。この前期の努力が実習や就職試験にダイレクトに関わってくるので、毎回真剣に取り組む、1 曲でもレパートリーを増やすように努力してほしい。 また、実習先で出されたピアノ（歌含む）の課題は必ずこの授業で指導を受け、発達や状況に応じた幅広い音楽表現を身につける。さらに授業内試験は、就職試験のリハーサルのつもりでスーツ着用の上、緊張感と集中力をもって臨むこと。 * 出席確認時に遅れた学生は遅刻。10 分以上の遅刻は最終評価から減点する * ツメを短く切って授業に臨むこと * 指導では様々な書き込みをするため、必ず自分の楽譜を持ってくること * あいさつをしっかりと「よろしくお願いします」「ありがとうございました」 * 実技科目であるため、試験不合格者への救済措置として、再テストの機会を設けている。再テストは負担が大きくなるため受験せずにすむよう、日頃から精一杯の努力をすること。				
テキスト 音楽Ⅱからの継続教材（各指導教員の指示に従う）			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 無 ）				

科目名 造形表現Ⅱ			担当教員 宮脇佳子	
2 年次	後期	1 単位	選択	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育の中での造形表現活動について、様々な素材を用いた活動の可能性を知る。				
授業のねらい・概要 保育の中での造形表現活動について、1 年次で学んだ基礎知識を基に、実技演習を通じて理解を深める。				
授業の内容・進め方 第 1 回：壁面パネルを用いた造形表現（共同制作）① 第 2 回：壁面パネルを用いた造形表現（共同制作）② 第 3 回：壁面パネルを用いた造形表現（共同制作）③ 第 4 回：壁面パネルを用いた造形表現（共同制作）④ 第 5 回：粘土による造形表現の習得 第 6 回：布を用いた造形表現の習得 第 7 回：自然物を用いた造形表現の習得 第 8 回：ひも、その他の素材を用いた造形表現の習得 第 9 回：実習保育所での造形活動レポート 第 10 回：実習幼稚園での造形活動レポート 第 11 回：絵の具 紙、その他の素材を用いた造形表現の習得 第 12 回：版を用いた（写る、写す）造形表現の習得 第 13 回：紙芝居制作（題材を決定、エスキース） 第 14 回：紙芝居制作 第 15 回：紙芝居制作発表 定期試験は実施しない。				
単位認定の方法及び基準 授業における発表の成果（50%）、授業における課題制作の成果（25%）、ノート提出（25%）				
学生へのメッセージ 1 年次で学んだ造形表現を基に、共同制作を通して実技演習を行なう。課題制作が中心となるがその過程、材料などノートに記録すること。				
テキスト 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 教育情報出版 内容によりプリント配布。 スケッチブック代、材料費を徴収する。			参考図書 適宜、参考資料を配布する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 幼児の造形教室、社会人造形教室、特別支援学校での造形指導がある教員が、その経験を活かし、様々な素材による造形表現方法の指導を行う。				

科目名 特別支援教育・保育概論			担当教員 豊永麻美	
2 年次	通年	2 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 特別な支援を必要とする子どもの様々な困難を理解し、保育現場で対応していくための方法や課題とそれらの意義について学び、理解を深める。				
授業のねらい・概要 各種障害に関する知識を深め、保育の中での子どもの困り感への対応について理解する。また、特別に支援が必要な児童、障害のある児童に対する保育計画の作成や関係諸機関等との連携、今後の課題等について理解する。				
授業の内容・進め方 第 1 回：「障害」の概念と障害児保育を支える理念 第 2 回：障害児保育の歴史的変遷～明治期・大正期 第 3 回：障害児保育の歴史的変遷～昭和期から現在 第 4 回：ノーマライゼーションの思想とインクルーシブ教育の考え方 第 5 回：共生社会の実現をめざす教育・保育理念 第 6 回：障害児等への理解と発達支援の考え方 第 7 回：肢体不自由児の理解と発達援助 第 8 回：視覚障害児の理解と発達援助 第 9 回：聴覚障害児・言語障害児の理解と発達援助 第 10 回：知的障害児の理解と発達援助 第 11 回：発達障害の基本的理解 第 12 回：自閉スペクトラム症の子どもの理解と発達援助 第 13 回：注意欠如多動症の子どもの理解と発達援助 第 14 回：限局性学習症の子どもの理解と発達援助 第 15 回：重度心身障害児、医療的ケアを要する子どもの理解と援助 第 16 回：その他の保育・教育的ニーズを持つ子どもの理解と援助 第 17 回：特別支援教育・保育における保育計画 第 18 回：個別の指導計画作成と特別支援教育 第 19 回：個々の発達を促す遊びや生活の環境整備 第 20 回：障害児と他児との関わり合いと育ち合い 第 21 回：保育職員間の協働とスーパービジョン 第 22 回：保護者や家族に対する理解と支援 第 23 回：保護者間の交流や支え合いの意義 第 24 回：地域の専門機関との連携 第 25 回：療育機関の現状と活動 第 26 回：小学校等との連携のしくみ 第 27 回：保健・医療の制度・施策と障害児 第 28 回：福祉・教育の制度・施策と障害児 第 29 回：障害児にかかわる今後の課題（支援の場の広がりつつながりのために） 第 30 回：コンプライアンスの実践－法令の理解－定期試験				
単位認定の方法及び基準 授業中に小テストを行う。定期試験を行い、総合的に評価する。評価の比率は、定期試験 70%、小テストの提出 30%とする。				
学生へのメッセージ 障害って何だろう？障害のある子どもとの育ち合い、ともに生きる社会とは？といったインクルーシブ保育のあり方について、問いを立てながら一緒に考えてまいりましょう。実際の保育の場面をイメージしながら、1 人 1 人の子どもへの理解が深まるように学習しましょう。				
テキスト 『新・基本保育シリーズ 17 障害児保育』 西村重稀、水田敏郎編集 中央法規			参考図書 授業中に随時紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育士として児童発達支援に従事した経験のある教員が、その経験を活かし、特別支援教育・保育に関する知識・支援の方法を指導する。				

科目名 社会的養護Ⅱ			担当教員 母里一夫	
2 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 子ども支援への理解を踏まえた社会的養護の内容について具体的に理解する				
授業のねらい・概要 1. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する 2. 社会的養護に関わる相談援助技術や記録、評価について理解する 3. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する				
授業の内容・進め方 1. 社会的養護における子どもの理解 2. 日常生活支援 3. 治療的支援 4. 自立支援 5. 施設養護の特性 6. 施設養護の実際 7. 実習のふりかえりを通した施設養護の総合的理解 8. 家庭養護の生活特性及び実際 9. アセスメントと個別支援計画の作成 10. 記録及び自己評価 11. 保育士の専門性に関わる知識・技術とその実践 12. 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践 13. 社会的養護における家庭支援 14. 社会的養護の課題と展望 15. まとめ				
単位認定の方法及び基準 平常点（授業への参加態度、授業内の課題提出等）40%、期末試験 60%とし、総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 幼稚園、保育園での仕事以外でも多くの保育士が社会福祉士、社会福祉主事、教員などと福祉職として就労しています。しっかり学び福祉施設で働く自分も想像してください。				
テキスト テキストなし、毎回資料を配布するので綴じるファイルを用意すること。		参考図書 初回にアナウンスする		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 知的障害者施設、児童相談所、児童自立支援施設、児童養護施設でケアワーカー、自立支援スタッフ、ファミリーソーシャルワーカーを務めた経験のある教員が、事例をあげて授業を行う。				

科目名 子育て支援			担当教員 麗麗	
2 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標				
①現在の日本の保育における子育て支援の現状を知る。 ②保育士の行う保育の専門性を背景とした子育て支援について、その特性と展開、具体的な支援方法を理解する。				
授業のねらい・概要				
子どもの保育とともに行う日常的・継続的な保護者支援、保育の専門性を生かした地域の子育て家庭に対する支援について、その重要性を理解する。そのうえで、様々な課題を抱える子育て家庭に対して行う保育士の支援について、その内容や方法及び技術、社会資源の活用と自治体・関係機関や多職種との連携・協働について実践事例を通して具体的に理解する。				
授業の内容・進め方				
1. オリエンテーション、子育て支援とは 2. 子育て・子育ての現状 3. 日常的・継続的ななかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 4. 相談・支援の基本的姿勢 5. 保護者と子どもの状況・状態の把握 6. 支援の計画と環境の構成 7. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス 8. 職員間の連携と協働、関係機関（者）との連携・調整・社会資源の活用 9. 保育所における子育て支援 10. 地域の子育て支援 11. 障がいを抱えた子どもと家族の支援 12. 特別な配慮を要する子ども文化的に多様な背景を持つ子どもおよびその家庭に対する支援 13. 子ども虐待の予防と対応 14. 要保護児童等の家庭に対する支援 15. まとめ				
単位認定の方法及び基準				
・期末試験（40%）、レポート・小テスト（30%）、出席状況・授業態度（30%）を総合して評価する。				
学生へのメッセージ				
保育における子育て支援の現状を理解したうえ、具体的な子育て支援の方法を理解するため実践事例を通して学びを深めていくことが中心となります。積極的なワークへの取組みと記録を望みます。				
テキスト 園川 緑・中畠 洋 編著「保育者のための子育て支援入門—ソーシャルワークの視点からやさしく学ぶ」萌文書林、2021 年			参考図書 ・参考文献等は、その都度紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 無 ）				

科目名 教育相談論			担当教員 松宮美樹	
2 年次	通年	2 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 個々の子どもの発達の・心理的な特質を踏まえ、教育的課題の解決を支援するための基礎的な知識を習得する。				
授業のねらい・概要 子どもの不適応等に関する心理学諸理論を学び、発達段階や内容に応じた教育相談の進め方について理解を深め、実践力を高める。				
授業の内容・進め方 第 1 回：教育相談支援の定義と意義 第 2 回：教育相談支援の目的と対象 第 3 回：教育相談支援の原理・原則 第 4 回：保育と教育相談支援 第 5 回：教育相談支援に関する理論 第 6 回：子どもの問題行動・不適応とその特徴 第 7 回：カウンセリングの基礎理論とカウンセリングマインド 第 8 回：カウンセリングの基礎技術 第 9 回：受信型と発信型の教育相談支援技術 第 10 回：教育相談支援の直接的な手段 第 11 回：教育相談支援の間接的な手段 第 12 回：教育相談支援の構造と展開～支援の前提 第 13 回：教育相談支援の構造と展開～アセスメント 第 14 回：教育相談支援の構造と展開～モニタリング 第 15 回：保護者との信頼関係を形成する環境づくり 第 16 回：基本的な生活を支える環境 第 17 回：教育相談支援の評価のポイント 第 18 回：園における教育相談支援の体制、仕組みづくり 第 19 回：他機関や他専門職等との連携 第 20 回：日常的な関わりの中での教育相談支援～「気になる子」のシグナル 第 21 回：日常的な関わりの中での教育相談支援～日常の保育場面での対応 第 22 回：特定の機会における教育相談支援～懇談会 第 23 回：特定の機会における教育相談支援～保育参観 第 24 回：障害のある子どもとその家庭への支援 第 25 回：不適応行動を示す子どもとその家庭への支援 第 26 回：児童虐待が疑われる子どもとその家庭への支援 第 27 回：保護者に子育てで不安が強い子どもとその家庭への支援 第 28 回：保護者に障害や疾患のある子どもとその家庭への支援 第 29 回：その他特別な配慮を必要とする子どもとその家庭への支援 第 30 回：保育所等児童福祉施設における相談支援定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（40%）、課題提出（60%）				
学生へのメッセージ 心理学の授業内容が基礎となるため、復習を勧める。				
テキスト 『実践・保育相談支援』 みらい			参考図書 適宜、資料を配布する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 巡回相談員、母子相談員、心認心理師、スクールカウンセラー経験がある教員が、幼稚園・保育園において実際に担当した事例を踏まえて現状や課題について講義する。				

科目名 国語表現法			担当教員 野見山直子・藤澤麻里・他	
2 年次	通年	2 単位	選択	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育現場で、絵本を通して心豊かな子どもを育てることを目指し、絵本に関する「知識」、絵本の魅力を伝える「技能」、豊かな「感性」を身につける。本科目の授業の 8 割以上を出席し、単位を取得することで「認定絵本土」を取得することができる。				
授業のねらい・概要 絵本に関する知識・技術を幅広い視点から学ぶことで、子どもや保護者へ絵本の魅力を伝えることができるようになる。また、幅広い知識や技能等を活かし、保育現場や地域で実際に絵本を使って、その魅力や可能性を伝え、地域の読書活動を充実させることができることを目指す。				
授業の内容・進め方 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：絵本総論（絵本とは何か） 第 3 回：絵本各論①絵本の歴史、絵本賞について 第 4 回：絵本各論②視覚表現、言語表現から見た絵本 第 5 回：絵本各論③子供の知的・社会的発達と絵本との関わり 第 6 回：絵本各論④メディアとしての絵本の位置づけ 第 7 回：さまざまなジャンルの絵本①物語の絵本 第 8 回：さまざまなジャンルの絵本②昔話、童話を基にした絵本 第 9 回：さまざまなジャンルの絵本③科学絵本等 第 10 回：絵本と出会う①はじめての絵本との出会い 第 11 回：絵本と出会う②保育・教育の場での出会い 第 12 回：絵本と出会う③図書館等での出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性 第 13 回：絵本と出会う④書店での出会い 第 14 回：絵本の世界を広げる技術①絵本を探す技術 第 15 回：絵本の世界を広げる技術②ワークショップ 第 16 回：絵本の世界を広げる技術③絵本コンシェルジュ術 第 17 回：絵本を紹介する技術①ブックトークの技術 第 18 回：絵本を紹介する技術②書評・紹介文の書き方 第 19 回：絵本を紹介する技術③支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割 第 20 回：おはなし会の手法①おはなし会を開こう 第 21 回：おはなし会の手法②おはなし会のテクニック 第 22 回：絵本の持つ力（さまざまな角度から絵本を見る） 第 23 回：心に寄り添う絵本（心のケアと絵本の可能性） 第 24 回：絵本のある空間（絵本のある望ましい空間とは） 第 25 回：子供の心をとらえるもの（子供の心をとらえて離さないもの） 第 26 回：大人の心を豊かにする絵本（人生で 3 度、絵本を手にする喜び、大人にこそ絵本を） 第 27 回：ホスピタリティに学ぶ（人を楽しませる為の手法を学ぼう） 第 28 回：絵本が生まれる現場①（作家の感性に触れる） 第 29 回：絵本が生まれる現場②（絵本の編集） 第 30 回：ディスカッション（認定絵本土としての今後の活動）				
単位認定の方法及び基準 毎回の振り返りシート（70％）、事前・事後課題、グループワーク取り組み姿勢（30％） 認定絵本土の認定には全授業（30 コマ）のうち 8 割以上の授業に出席が必須となる。				
学生へのメッセージ 授業を通して様々な絵本との出会い、絵本を介してのグループワークでの出会い、絵本に関する様々な職業の方と出会いがあります。絵本の知識や技術を高めることはもちろん、多様な刺激を受けることで豊かな感性を磨いてください。受講人数は 50 名以内とする。				
テキスト 『認定絵本土 養成講座テキスト』（絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本土養成講座テキスト作成ワーキンググループ編、中央法規）			参考図書 その他、授業時に適宜紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 絵本専門士の資格を持つ教員が、保育現場や地域の子育て支援活動の経験を生かし、認定絵本土に必要な知識・技術について指導する。				

科目名 保育・教職実践演習			担当教員 山梨有子・野見山直子・平原藍・板東愛理香・他	
2 年次	後期	2 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 教科学習や教育・保育実習での学びを踏まえて、保育者としての知識や技能の修得を確認するとともに、社会性や対人関係能力の向上と保育に携わる者としての使命感や責任感、実践力を養う。				
授業のねらい・概要 修得した知識や技能を、保育の場での実践にどのように結びつけたら良いのかを、演習を通して学べるように授業を展開する。特に、実習での体験をもとにして、乳幼児に対する理解や関わりのあり方、保護者との関係の構築方法、また乳幼児や保護者に対する責任とは何か等について、講義を踏まえつつグループワークやロールプレイングなどを用いた授業を行う。さらには、保育実践力を高めるための技術向上を図るとともに、幼稚園や保育所が抱えている課題とその解決方法などについて、学生自らが調べ、まとめる機会も設ける。				
授業の内容・進め方 第 1 回：オリエンテーションー保育・教職実践演習の目的（担当：山梨有子） 第 2 回：保育の楽しさと難しさ（1）ー乳児と関わることの意義の再確認（担当：平原藍） 第 3 回：保育の楽しさと難しさ（2）ー幼児と関わることの意義の再確認（担当：山梨有子） 第 4 回：関わりの技術（1）ー幼稚園実習の体験を踏まえて、子どもとのより良い関わり方を考える（担当：野見山直子） 第 5 回：関わりの技術（2）ー保育所実習体験を踏まえて、子どもとのより良い関わり方を考える（担当：山梨有子） 第 6 回：関わりの技術（3）ー施設実習の体験を踏まえて、子どもとのより良い関わり方を考える（担当：平原藍） 第 7 回：関わりの技術（4）ー保護者や地域とのより良い関わり方を考える（担当：板東愛理香） 第 8 回：保育実践力を高めるー読み聞かせやお話の技術（担当：野見山直子） 第 9 回：保育実践力を高めるー創作や表現の技術（担当：山梨有子） 第 10 回：保育実践力を高めるー音楽や運動の技術（担当：平原藍） 第 11 回：保育実践力を高めるー環境への興味を引き出す技術（担当：板東愛理香） 第 12 回：保育者の使命と責任（1）ー子どもの目に写る保育者の姿とは（担当：山梨有子） 第 13 回：保育者の使命と責任（2）ー社会の一員としての保育者（担当：山梨有子） 第 14 回：幼稚園や保育所が抱えている今日的課題（担当：野見山直子） 第 15 回：どのような保育者になりたいかー目指すべき保育者の姿を描く（担当：野見山直子） 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（50%）、授業におけるレポート課題の評価（50%）				
学生へのメッセージ なお、本科目は、すべての実習修了（見込み）者を対象とした科目であるため、未修了の実習がある場合、本科目も未修了となる。				
テキスト 適宜プリントを配布する。			参考図書 『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 幼稚園教諭経験や保育実践経験のある教員が、オムニバス形式により、その経験を活かして具体的な行事・活動を行う上での計画の立て方、準備の仕方、他の保育者との連携の取り方について実践的な授業を行う。				

実習科目

科目名 保育実習Ⅰ－保育所		担当教員 平原藍・他	
1 年次	2 単位	必修	実習
授業のテーマ及び到達目標 保育所保育の機能及び内容を理解し実践力を身につける。			
授業のねらい・概要 児童福祉施設である保育所の生活に参加し、保育所保育士の職務内容および保育所の機能を理解することをねらいとする。また、子どもや保育者との関わりを通して実践力を養う。さらに、保育所保育士としての職業倫理と使命を理解し、保育への熱意を育むこともねらいとする。			
実習期間 保育所実習Ⅰ期は、1 年次 2 月におおむね 10 日間以上の実習を行う。			
授業の内容・進め方 保育所実習Ⅰ期では、観察実習、参加実習を中心にを行い、さらに部分実習を行う。その段階においては、実習園の状況によって実施される。実習中には巡回指導を実施し、実習施設の実習担当者との連携のもとに、実習へのスーパービジョンを行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設について理解することを通して、保育所の社会的役割と責任を理解する 2. 保育所の生活に参加することを通して、一日の流れを理解する 3. 子どもへの観察や実際の関わりを通して乳幼児の発達を理解する 4. 全体的な計画と指導計画及び評価を理解する 5. 生活および遊びなど一部分を担当して保育技術を習得する 6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する 7. 記録や保護者とのコミュニケーションを通して家庭や地域社会との連携を理解する 8. 子どもの最善の利益を具現化する方法について学ぶ 9. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ 10. 安全及び疾病予防への配慮について理解する 			
実習の記録 実習期間を通して、毎日実習日誌を作成し、指導者へ提出する。予め立てた一日の目標に沿って実習体験を記録し、学びや反省をまとめる。			
単位認定の方法及び基準 実習態度、実習における保育の理解や記録、事前事後学習を総合的に評価する。実習態度、実習における保育の理解、記録 80%、事前事後学習 20%とする。			
学生へのメッセージ これまで学んだ様々な保育の理論や技術を踏まえ、総合的な実践学習である。 したがって、まずこれまでの学習を復習し、各自がしっかりとした目標を持って臨んでほしい。実践を通して、保育所保育の理解、子ども理解、保育者の役割について学びを深めてほしい。 また、実習を行うにあたっては、生活態度など社会人としての自覚を十分に意識してほしい。さらに、自らの言動を振り返り、自身の適正や指標を考える手がかりにしてほしい。			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育士として保育所で働く上で必要な能力を身につけるために、実習指導者の指導の下、保育所において保育実践を行う。 実習中に巡回指導を実施し、実習へのスーパービジョンを行う。			

科目名 保育実習Ⅰ－施設		担当教員 藤澤麻里・他	
1・2年次	2単位	必修	実習
授業のテーマ及び到達目標 施設養護の内容の理解と実践力の基礎を習得する			
授業のねらい・概要 児童・社会福祉施設の生活に参加し、施設利用児・者への理解を深めるとともに、児童・社会福祉施設の役割と機能を理解し、そこでの保育士の職務について学ぶ。			
実習期間 施設実習（必修）は、おおむね10日以上実施とする。			
授業の内容・進め方 施設実習（必修）では、見学実習、観察実習、参加実習、指導実習を、段階を踏まえて実習施設の状況に合わせおこなう。 1. 実習施設役割と機能について理解する。 2. 養護の一日の生活の流れを理解し、共に生活する。 3. 利用者の観察や関わりを通して、利用者のニーズを理解する。 4. 援助支援計画を理解する。 5. 生活や支援などの一部分を担当し、養護・支援技術を学ぶ。 6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 7. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭・地域社会との連携を理解する。 8. 利用者の最善の利益についての配慮を学ぶ。 9. 保育士としての職業倫理を理解する。 10. 安全および疾病予防への配慮について理解する。			
実習の記録 実習期間を通して、毎日実習日誌を作成し、指導者に提出する。実習日誌は予め立てた一日の目標に沿ってその日の実習体験を記録し、学びや反省をまとめる。			
実習事後指導 1. 実習の振り返り総括レポート作成を通して、自己評価を行う。 2. それぞれが実習体験を報告し合い、様々な児童福祉施設の実態を理解する。 3. まとめとして、 ・様々な種別の児童福祉施設で働く保育士の業務の共通点 ・利用児・者の生活や遊び・発達の援助・支援で大切にしていた事 ・他職種との連携 などを話し合うことを通して「保育士の専門性」について考える。			
実習中の巡回指導 実習期間中に教員が巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに、実習生へスーパービジョンをおこなう。			
単位認定の方法及び基準 実習態度、実習における施設養護の理解や記録、事前事後学習を総合的に評価する。実習態度、実習における施設養護の理解、記録80％、事前事後学習20％とする。			
学生へのメッセージ 施設実習は、施設の種別によってその設置目的や機能が異なるため配属先により実習内容に違いがある。まずは、配属先が決定した段階で、各自、実習先施設の目的・機能・概要について十分に調べ、理解しておく必要がある。その上で、実践を通して、施設の理解、施設利用児・者理解、保育者の役割について学びを深めてほしい。 さらに、実習後は実習を振り返り、自己課題や保育観を明確にし、今後の学びに繋げていってほしい。			
テキスト 「より深く理解できる施設実習－施設種別の計画と記録の書き方」萌文書林		参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育士として施設（乳児院・障害者支援施設など）で働く上で必要な能力を身につけるために、実習指導者の指導の下、施設において実践的な経験積む。			

科目名 保育実習指導Ⅰ			担当教員 藤澤麻里・平原藍	
1 年次	通年	2 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育実習を通して保育者になるための実践力を習得する				
授業のねらい・概要 1 年次 2 月より実施される保育所実習Ⅰ期、及び施設実習についての事前事後学習を行う。保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深化させ、実習体験の共有化を通して福祉職の体系化を推し進め、将来につながる実践力を養うことをねらいとする。				
授業の内容・進め方 1. オリエンテーション 2. 保育実習の意義目的と概要 3. 実習に向けての準備と心構え 4. 保育所の理解①保育所の一日 5. 保育所の理解②保育環境 6. 施設の理解①施設実習の意味 7. 施設の理解②施設の種類 8. 保育技術の習得①発達過程と保育 9. 保育技術の習得②絵本 1 10. 保育技術の習得③絵本 2 11. 保育技術の実践 12. 保育実習の自己課題① 13. 保育実習の自己課題② 14. 実習日誌について①記録の意義 15. 実習日誌について②記録の書き方 1 16. 実習日誌について③記録の書き方 2 17. 乳幼児保育の実際① 18. 乳幼児保育の実際② 19. 保育者の援助と役割 20. 保育計画の理解①保育計画とは 21. 保育計画の理解②指導計画の立案 1 22. 保育計画の理解③指導計画の立案 2 23. 指導計画による実践 24. 施設実習の理解①実習における課題の明確化 25. 施設実習の理解② 2 年生の体験談 26. 保育所の理解③ 2 年生の体験談 27. 保育実習における学びの整理 28. 体験の共有化と課題の明確化① 29. 体験の共有化と課題の明確化② 30. まとめ				
単位認定の方法及び基準 授業への理解、課題レポートを総合に評価する。授業への理解 50%、課題提出 50%とする。				
学生へのメッセージ 保育実習はこれまで得た知識・技術を基に、子どもや保育者と実際に関わりながら、保育について具体的に学ぶ機会です。 そのためにも、基本的な保育理解が必要になってきます。毎回の授業での学びや復習を怠らず、しっかり準備をして実習に臨みます。また、実習は社会での学びとなります。日頃から社会人としての常識を理解し、責任ある言動をとることも重要になってきます。 実習事後においては、他の学生と体験を共有することにより、自分の課題を明確にしたり、保育観を深化させていきます。				
テキスト 『学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド』（大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 中央法規出版） 『幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方』（相馬和子・中田カヨ子編 萌文書林） 『保育の活動・遊び パーフェクトガイド』（小山朝子・小櫃智子編 わかば社） 『保育所保育指針解説』（平成 29 年 3 月告示、厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 29 年 3 月告示、内閣府・文部科学省・厚生労働省）			参考図書 適宜授業の中で紹介する。 『読み聞かせて発達支援 絵本でひらく心ことば』（本と子どもの発達を考える会 かもがわ出版）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 有 ） 藤澤麻里・平原 藍 保育実践経験がある教員がその経験を活かし、保育の具体を伝えると共に、保育所及び児童福祉施設における子どもの生活と保育士の援助や関わりについての授業を行う。				

科目名 教育実習指導			担当教員 野見山直子	
1・2年次	通年	1単位	必修	実習
授業のテーマ及び到達目標 教育実習の意義や目的を理解すると共に、記録や指導案等、実習に参加する為に必要な知識や技能を身につける。				
授業のねらい・概要 2年次に予定している教育（幼稚園）実習についてその事前準備と事後学習を行なうことにより、基礎理論をベースにしながら実践について学びを深めることができるようにすることをねらいとする。				
授業の内容・進め方 1. オリエンテーション 2. 教育実習とは （1）実習の意義・目的・内容・段階 3. 教育実習とは （2）実習の心得 4. 幼稚園とは （1）幼稚園の制度と教育基本 5. 幼稚園とは （2）幼稚園の一日 6. 「彰栄幼稚園」観察実習 （1）オリエンテーション 7. 「彰栄幼稚園」観察実習 （2）観察の方法 8. 「彰栄幼稚園」観察実習 （3）観察記録のとり方 9. 「彰栄幼稚園」観察実習 （4）振り返りとまとめ 10. 保育実技（1）手遊び 11. 保育実技（2）紙芝居 12. 保育実技（3）絵本その他 13. 実習日誌とは（1）意義・書き方 14. 実習日誌とは（2）日誌を書いてみる 15. 実習指導案とは（1）実習指導案とは何か 16. 実習指導案とは（2）実習指導案を書いてみる 17. 教育実習について諸注意 18. ゲストスピーカーによる講演 19. 春期幼稚園実習における学びの整理 （1）自己評価と反省 20. 春期幼稚園実習における学びの整理 （2）実習体験の共有化 21. 春期幼稚園実習における学びの整理 （3）自己課題の整理 22. 秋期幼稚園実習に向けての準備 （1）活動研究と実践演習 23. 秋期幼稚園実習に向けての準備 （2）日案の立案 24. 秋期幼稚園実習における学びの整理				
単位認定の方法及び基準 定期試験、授業中の小テスト、授業への取り組みを総合して評価する。評価の比率は、定期試験や小テスト70%、授業への取り組み30%程度とする。				
学生へのメッセージ 幼稚園教諭は、子どもの成長にかかわる責任ある仕事を担っている。この教育実習に臨むにあたり、専門的な知識や技能を身につけることは勿論のこと、日常における基本的な生活態度や社会人としての常識についてもしっかりと考えて欲しい。保育者になるために学ぶ学生として品位ある態度と行動が常に求められる。このことを十分に理解して授業に取り組み、学生一人ひとりが充実した実習を行い幼稚園という現場で具体的な体験を通して、子どもの魅力、保育の奥深さを知ってほしい。また、各期の実習後は自己課題を明確にするとともに実習体験の共有をはかり、理論と実践の体系化を目指して欲しい。特に、秋期幼稚園実習後には、春期の実習をも含めた学びの整理をした上で、「教育実習体験報告書」を作成し教育実習の総括を行う。				
テキスト 『幼稚園教育要領解説』（平成29年3月告示、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年3月告示、内閣府・文部科学省・厚生労働省） 相馬和子・中田カヨ子『実習日誌の書き方』第2版 萌文書林 『学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド』（大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 中央法規出版） 『幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方』（相馬和子・中田カヨ子編 萌文書林） 『保育の活動・遊び パーフェクトガイド』（小山朝子・小櫃智子編 わかば社）			参考図書 必要に応じて適宜紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 幼稚園教諭経験のある教員が、教育実習におけるマナー、実習事務手続き、実習の意義、日誌の書き方、指導案の書き方等充実した実習に向けた知識・技術について指導する。				

科目名 教育実習		担当教員 野見山直子・他	
1・2年次	4単位	必修	実習
授業のテーマ及び到達目標 幼稚園教育の実際の理解と保育実践力の習得			
授業のねらい・概要 実際の幼稚園における保育を観察し、自らが体験することを通して、幼稚園教育の深い理解を得ること、また保育実践力を養うことをねらいとする。さらに、幼稚園教諭として必要な資質や能力の向上をはかるだけでなく、教育者としての使命感や保育への熱意、幼児への深い愛情を育むこともねらいとしている。			
実習の時期 幼稚園実習は、24日間を春期（4月初旬）と秋期（9月下旬～10月初旬）の2期に分けて実施する。なお、春期（前期）、秋期（後期）とも同じ実習園で実習を行う。			
授業の内容・進め方 幼稚園実習は、観察実習、参加実習、指導実習の段階によって行う。その配分は、各幼稚園の状況に合わせて適切に実施されるが、春期（前期）実習では観察実習・参加実習を中心に指導実習（部分実習）を、秋期（後期）実習では参加実習・指導実習（1日実習）を中心に進められる。それぞれの内容は以下の通りである。			
1. 観察実習 幼稚園における保育実践の場を観察することにより、幼児や保育について理解する。特に以下の事柄を観察し学ぶ。 ①保育環境 ②一日の園生活の展開 ③幼児の園生活の様子 ④幼児の遊びや活動の様子 ⑤幼児の発達の実態 ⑥教師の幼児へのかかわり、援助			
2. 参加実習 参加実習は、指導教師の指導を受けながら、教師の助手的立場として側面から保育に参加し、幼児の活動や幼稚園教諭の役割を体験的に理解する。 ①指導教師の指示にしたがい、園生活や活動を展開していく上で必要な援助について補佐を行いながら学ぶ。			
②幼児と生活や遊びをともにしながら幼児理解を深め、指導教師の考えに基づき一人ひとりの幼児への必要な援助を考えながらかわっていく。 ③自ら指導教師の指示を受け、清掃や環境整備、遊具や教材等の準備、事務処理、バスの添乗など保育以外の園務を行う。			
3. 指導実習 指導実習は、観察・参加実習での学習を踏まえ、助手的立場ではなく保育の中の一定時間を教師として責任をもって担当する。保育の計画立案から準備、実践のすべてを体験的に学ぶ。 ①実習園の保育方針や教育課程、指導計画に即した実習案を作成する。 ②実習案の計画に基づいて保育の事前準備を行う。 ③実習案の計画に基づいて保育実践を行う。 ④自らの保育実践について反省、評価するとともに、指導教師及び参観者の評価、助言を受け、保育実践への学びを深める。 ＊指導実習は、最初の段階では一日の中の部分的な時間を担当し（部分実習）、最終段階では一日の保育を担当する（1日実習及び責任実習）。 なお、各期の実習中には、教員による巡回指導が実施され、実習園の実習指導担当者との連携のもとに、実習生へのスーパービジョンが行われる。			
実習の記録 実習期間を通じて、毎日実習日誌をつける。その日の保育や実習体験を記録し、実習での学びや反省をまとめる。			
単位認定の方法及び基準 実習園からの評価表をもとに実習態度、実習における保育の理解や記録 80%、事前事後学習 20%で評価を行う。			
学生へのメッセージ 幼稚園教諭となるためには、しっかりとした保育理論、また保育に必要な様々な技術を身につけなくてはならない。学校の授業では、こうした保育理論及び保育技術を学習するが、ただ理論と技術を習得するだけでは十分といえない。実際の幼稚園における保育を観察し、自らが体験することを通して、幼稚園教育の深い理解を得ることができ、また保育実践力を養うことができる。実習はまさにこうした実践的学習のできる貴重な場であることを認識して欲しい。そして、その実践的学習は保育理論や保育技術の基礎学習の上に成り立つことを理解し、学校での学習をしっかり行うことが前提となる。また、保育理論や保育技術の習得だけでなく、日常の基本的な生活態度や社会人としての常識についても問われるものである。教育の現場に立つという自覚をしっかりとち、幼稚園教諭を目指すものとして品位ある態度と行動を常に心がけて欲しい。			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 幼稚園教諭に必要な現場理解と保育実践力を身につけるため、幼稚園において、実習指導者の指導の下、指導案を立案し、教育を行う。			

科目名 保育実習Ⅱ（保育所）		担当教員 平原 藍・他	
2 年次	2 単位	選択必修	実習
授業のテーマ及び到達目標 保育所保育についての理解を深化させ、保育者としての資質向上をめざす			
授業のねらい・概要 保育所実習Ⅰ期で習得したことを踏まえ、保育士として必要な資質・能力・技術を向上させる。また、社会における保育所の実態にふれて、家庭や地域との関係や子育て支援などの理解を深める。			
実習期間 保育所実習Ⅱ期は、2 年次 8 月下旬から 9 月上旬におおむね 10 日間以上の実習を行う。			
授業の内容・進め方 保育所実習Ⅱ期では、参加実習、責任実習を行う。その段階においては、実習園の状況によって実施される。実習中には巡回指導を実施し、実習施設の実習担当者との連携のもとに実習へのスーパービジョンを行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育全般に参加し、保育技術を習得する 2. 子どもと丁寧にかかわり、一人ひとりの適切な関わりかたを学ぶ 3. 生活環境を含めた子どもの発達過程を理解する 4. 家庭とのコミュニケーションの方法を具体的に学び、家庭との連携について理解する 5. 地域社会との連携について具体的に学ぶ 6. 子どもの最善の利益の配慮を学ぶ 7. 保育所保育士としての保育観を構築する 8. 保育所の社会的役割を理解する 9. 保育士としての職業倫理を理解する 10. 保育所保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する 			
実習の記録 実習期間を通して、毎日実習日誌を作成する。考察反省の記録のほか、指導計画案や部分及び責任実習実施の反省も記録し、指導者に提出する。			
単位認定の方法及び基準 実習態度、実習における保育の理解や記録、責任実習、事前事後学習を総合的に評価する。実習態度、実習における保育の理解、記録、責任実習 80%、事前事後学習 20%とする。			
学生へのメッセージ 保育所実習Ⅱ期では、Ⅰ期で明確となった自身の課題を踏まえて、保育士となるためのさらなる向上をめざし、部分・責任実習などから保育の知識や技術を学んでいく。 また、子どもや保育士の言動の意味を的確に捉えながら学生自身も積極的に関わり、子ども理解や保育者の役割についての学びを深めてほしい。 保育所実習の総括として、実習前には十分な準備をして臨むこと。そして、社会人としての意識を高く持ち、責任ある行動をとり、積極的に取り組んでほしい。			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育士に必要な能力を身につけるために、実習指導者の指導の下、保育実習Ⅰの課題を明確にした上で、保育所において保育実践を行う。 実習中に巡回指導を実施し、実習へのスーパービジョンを行う。			

科目名 保育実習指導Ⅱ			担当教員 平原 藍	
2 年次	前期	1 単位	選択必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育実習Ⅰを踏まえ、保育者になるための実践力を習得する				
授業のねらい・概要 1 年次の保育実習指導Ⅰに引き続き、保育所実習Ⅱ期のための事前事後学習である。 保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深化させ、実習体験の共有化を通して福祉職の体系化を推し進め、将来につながる実践力を養うことをねらいとする。				
授業の内容・進め方 1. オリエンテーション・保育実習Ⅱに向けて 2. 保育所実習Ⅰ期① 3. 保育所実習Ⅰ期②子どもの最善の利益を考慮した保育 4. 保育計画の理解①指導案の理解 5. 保育計画の理解②指導案の作成 6. 保育実践力の習得①指導案の実践 1 7. 保育実践力の習得①指導案の実践 2 8. 保育実践力の習得①指導案の実践 3 9. 保育の観察、記録、自己評価の省察①観察の読み取りと記録の仕方 10. 保育の観察、記録、自己評価の省察②記録による子ども理解 11. 保育の観察、記録、自己評価の省察③記録による保育者の役割理解 12. 子どもの保育と保護者支援 13. 保育士の専門性と職業倫理について 14. 実習の総括と自己課題の明確化① 15. 実習の総括と自己課題の明確化②				
単位認定の方法及び基準 授業への参加をふまえた理解、課題レポートを総合的に評価する。授業への参加をふまえた理解 50%、課題提出 50%とする。				
学生へのメッセージ 社会の変化とともに、子どもを取り巻く環境も変化し多様化している。このような社会における様々な状況の子どもたちと関わりながら理解していくとともに、そこでの保育者の役割を学んでいってほしい。 また、保育所実習を通して自分の保育観を確立させ、それに対する自己課題を明確化していくことを望む。				
テキスト ・名須川和子監修『保育者になるための実習ガイドブック AtoZ』萌文書林 ・佐藤暁子『基本の遊びと広げ方』ひかりのくに ・『保育所保育指針解説書』（平成 29 年 3 月告示、厚生労働省） ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 29 年 3 月告示、内閣府・文部科学省・厚生労働省）			参考図書 適宜授業の中で紹介する	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 有 ） 保育実践の経験がある教員がその経験を活かし、保育実習Ⅰにおける課題を明確化した上で、保育実習Ⅱにおける責任実習の実際について指導する。				

履修の手引き

授業や成績について

Q 授業の出欠はどのようにとるのですか？

A 授業の出欠は、各科目毎に担当の教員がとります。遅刻・早退についても、同じように各科目毎にとります。

Q 授業の欠席は何回まで認められますか？

A 各科目とも授業回数の3分の2以上出席していないと、その科目の単位を修得することができません（「失格」といいます）。例えば、半期開講科目の場合は、10回以上出席する必要があります。

出席回数は、自己管理が基本です。担当教員からの事前警告がなかったからといって、補講等で出席回数をカバーする理由にはなりませんので、十分に注意してください。

Q 授業の出席が3分の2未満の場合はどのように扱われますか？

A その科目の単位は修得できません。1年次開講科目の場合は、2年次にその科目を再履修してください。卒業年次に履修している科目で失格科目が1科目でもあると、留年となります。

Q 保育科の「選択科目」は、履修しなくてもいいのですか？

A 保育科の選択科目は、履修しなければいけない科目・単位数が決められています。

「音楽表現Ⅱ」と「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」は、選択科目の中でも必修です。それ以外に4単位以上修得しなければなりません。

Q 「単位」とは何ですか？

A 1単位は、「講義」・「演習」では15時間または30時間、「実技」・「実習」では30時間から45時間の授業をあてることとなっています。

授業時間割の1コマ（90分）は、2時間分の授業にあたります。

Q 成績評価はどのようにされますか？

A 具体的にどのような手続で成績評価を行うかは、科目担当教員によって異なりますが、成績評価は次のランクとなっています。評価が60点未満の場合は、単位を修得することができません。

成績評価点数が 60～69点 → 可
70～79点 → 良
80～100点 → 優

なお、学期毎に配付する成績表には評価点数が記されていますが、学校が発行する成績証明書には優・良・可のみが記されます。

Q GPAとは何ですか？

A GPA (Grade Point Average) は、各教科の成績評価点数によってGP (グレードポイント) を付与し、各科目の単位数にグレード・ポイントを乗じたものの総和を、履修した科目の総単位数で除したものです。計算式は、下記の通りです。学習成果を総合的に判断できる指標となります。保育科では、実習配属基準のひとつとして、配属する前の学期までのGPAを参考にしています。

$$\frac{(\text{履修科目のグレード・ポイント} \times \text{その科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の単位数の総和}}$$

本校では、グレード・ポイントを以下のように付与しています。

成績評価点数	グレード・ポイント
90～100点	4点
80～89点	3点
70～79点	2点
60～69点	1点
59点以下	0点

各科目において単位修得に必要な最低点をとった場合のGPAは1.0になります。

Q 入学する前に在籍していた大学等でとった単位は認められますか？

A 大学等で在籍していた学科や課程によって異なりますが、在籍当時に修得した単位を認める場合があります。細かな基準がありますので、学則を参照した上で、担任あるいは学科長に相談してください。

Q 再履修科目があるのですが、時間割を見ると自分が本来出席すべき授業とダブってしまい、再履修ができません。どうすればいいですか？

A 自分が本来出席すべき科目の受講曜日・時限・クラスを変更して再履修科目を受講できるように時間割を組んでみてください。本来の受講曜日・時限・クラスを変更して受講できる場合は、再履修・時間変更届を事務局へ提出するのを忘れないでください。

なお、時間割は再履修者がいることを前提に作成するものではないため、いろいろやり繰りをしてもすべての再履修科目を履修できない事態が生じるか

かもしれません。その場合は留年となり、翌年度に残りの科目を履修することとなります。

Q 1年生から2年生に上がれないということはあるですか？

A 1年生の履修科目の単位を修得できなかった場合は再履修すればよいのですから、原則として2年生に上がれないということはありません。ただし、再履修科目数や失格科目数が多すぎて2年生で履修すべき科目が履修できない状況となった場合は、もう一度1年生のクラスに所属してもらうこともあります。

Q 大学等に編入学する場合、在学中に修得した単位を生かしますか？

A 編入学する大学等の規定に従って、本校で修得した単位が認められる場合があります。編入学先に相談してください。また、シラバスの写しの提出を求められることが多いようですから、このシラバスは大切に保管しておいてください。

試験について

Q 3分の2以上授業に出席しているのに定期試験を休んだときは、どのように扱われますか？

A 休んだ理由によって扱いが違います。

病気や怪我、交通機関の遅延などやむを得ない事情があった場合は、追試験を受けることができます。

単に寝坊したというような場合は、追試験を受けることができません。

Q 追試験と再試験とは何が違うのですか？

A 追試験は、やむを得ない事情があって定期試験を欠席したときに受けるものです。成績不良の者を救済するための試験ではありません。追試験の採点は、一部の例外を除いて80%採点となります。定期試験、追試験ともに受験しなかったときは、その科目の単位は修得できません。

再試験は、試験終了後の時点で単位を修得できなかった科目があるときに受けることができるものです。詳細は履修規程を参照してください。

Q 追試験を受ける手続を教えてください。

A その科目の定期試験が終わってから3日以内に事務局へ追試験願を提出します。その後、審査を経て追試験受験の可否が決定されます。受験が認められた者については、追試験時間割発表と同時に掲示で通知します。受験が認められた場合は、事務局窓口で受験料を納めてください。

Q 再試験を受ける手続を教えてください。

A 再試験の対象となる科目と対象者を掲示で通知します。試験対象者となった場合は、事務局窓口で受験料を納めてください。

学籍について

Q 休学したいのですが、どのような手続が必要ですか？

A 事情があって休学したい場合は、まずは担任に申し出てください。担任とよく話し合った上で「休学願」を担任に提出してください。その後は、教員会で承認されて正式に休学が認められます。なお、休学は1年を超えることができません。また、休学期間中は授業料の2分の1を納めなくてはなりません。

Q 退学したいのですが、どのような手続が必要ですか？

A 休学と同じように担任とよく話し合った上で、学生証と退学願を担任に提出してください。その後、教員会で承認されて正式に退学が認められます。なお、退学を申し出る学期までの学費が納められていないと退学は認められません。学費未納の場合は退学願は受理されず、除籍として扱われます。

Q 退学と除籍の違いは何ですか？

A 退学は、本校で修得した単位はそのまま認められます。従って、他校へ編入学する場合や本校に再入学する場合などに、それまでの修得単位が認められることがあります。

除籍は、学校が学生に対して行う一種の処分です。従って、本校で修得した単位はすべて取り消されます。

Q 再入学とは何ですか？

A 事情があって本校を一度退学した後に、再び入学し直して卒業を目指すのが「再入学」です。再入学については、いろいろな決まりがあるので、学生便覧の「再入学に関する内規」を見てください。また、退学後に再入学を希望する場合は、前もって学校に相談してください。

Q 除籍された場合でも再入学できますか？

A 除籍された場合は、再入学の扱いは受けられません。再度入学を希望する場合は、通常の入学選考試験を受けることになります。